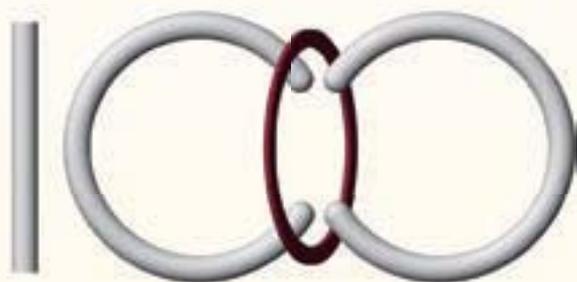


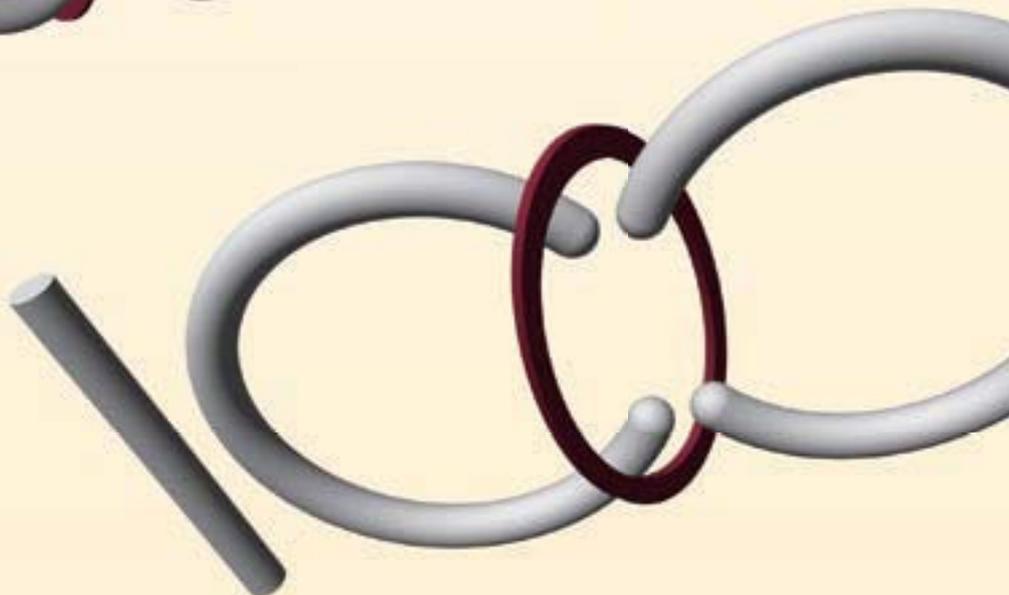
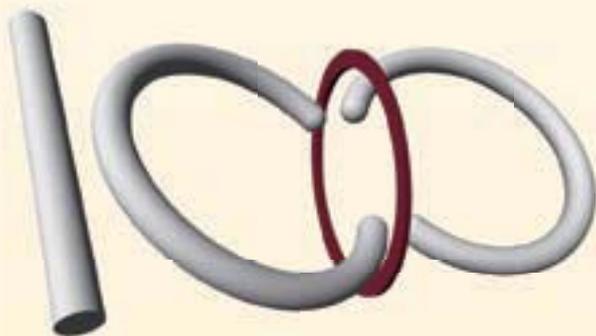
九大広報

Kyushu University Campus Magazine

vol. **55**
2008.1



KYUSHU UNIVERSITY 100th 2011
知の新世紀を拓く



特集

優秀授業賞 受賞者座談会

研究・ふろんとランナー

ロボットキャンパスを目指す

山本 元司 工学研究院 教授

インタビュー・シリーズ九大人
福岡国際マラソンで学生1位

濱田 翔平 修士2年

九州大学百周年記念事業 シンボルマークが完成。

九州大学は、明治四十四（一九一一年）、二十世紀の日本を担う拠点大学として設立され、平成二十三（二〇一一年）年に百周年を迎えます。「知の新世紀を拓く」のスローガンのもと、各種の百周年記念事業を進めています。この記念事業を象徴するシンボルマークができました。今後、百周年記念事業として展開される様々な媒体やイベント等で展開していきます。

コンセプト

百周年記念事業のスローガン「知の新世紀を拓く」をテーマに、未来への無限大の可能性とダイナミズムを表現。

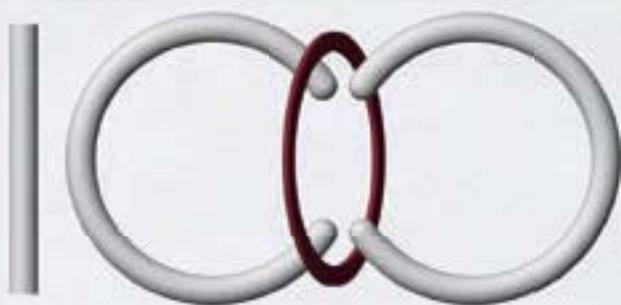
モチーフは「知恵の輪」

「知」の象徴としての「知恵の輪」は、非常に長い歴史を持ち、あらゆる地域、文化圏のなかで独自の発達を遂げ、子どもから大人まで幅広く親しまれてきたものです。百周年シンボルマークは、知恵の輪を構成するパーツが「100」を連想させる形に並び、さまざまな角度から見た三次元のバリエーションを生み出します。絡み合った輪が象徴する困難な課題を解決に導く多様な知性が、動的な知恵の輪の造形に込められています。空間の中にさまざまな角度で現れるメタリックな二つの輪は「∞（無限大）」の可能性をイメージさせ、中央の九州大学カラーの輪は、変化する多様な「知」の可能性をつなぎ、新たな知を生み出す媒介者としての役割を象徴しています。

作成

本学芸術工学府の大学院生（UIプロジェクトチーム）が中心となって制作。デザインを学ぶ学生の積極的な参加が、このプロジェクトの特徴です。

UIプロジェクトチーム：池田美奈子芸術工学研究院准教授、伊原久裕芸術工学研究院准教授、後藤萌（芸術工学府修士一年）、元松翠（芸術工学府修士一年）



KYUSHU UNIVERSITY 100th 2011
知の新世紀を拓く

特集	<p>第一回全学教育優秀授業賞 受賞者座談会</p> <p>新しい時代の新しい教養主義を考える……………3</p> <p>能崎 幸雄……………システム情報科学研究院・准教授</p> <p>秋吉 收……………言語文化研究院・准教授</p> <p>高瀬 正仁……………数学学研究院・准教授</p> <p>スカリー 悦子……………留学生センター・教授</p> <p>淵田 吉男……………高等教育開発推進センター長・教授</p>
教育―最近の話題から	<p>□現代的教育ニーズ取組支援プログラム……………9</p>
シリーズ研究・ふろんとランナー	<p>自律知能移動ロボット・ 窓ガラス清掃ロボットを皮切りに 九州大学ロボットキャンパス化を目指す 工学研究院 教授 山本 元司……………11</p>

研究―最近の話題から	<p>□グローバルCOEプログラム……………15</p> <p>□次世代SSPの六グループ紹介……………17</p> <p>インタビュー・シリーズ九大人 福岡国際マラソンで学生一位 大学院生物資源環境科学府 修士二年 濱田 翔平……………20</p>
ニュース	<p>□伊部に水素材料の研究棟オープン……………21</p> <p>□古川貞二郎さん 大学院生へ講義……………22</p> <p>□盛況だったホームカミング in 六本松……………22</p> <p>□クッドデザイン賞受賞……………23</p> <p>□環境サークルがエコ学園祭……………24</p> <p>□ITER機構長が講演……………24</p> <p>□同窓会の話題……………25</p> <p>□ようこそ九大へ……………25</p> <p>□伊都祭2007……………26</p> <p>□日本IBM科学賞を定兼准教授が受賞……………26</p>

海外オフィスだより	<p>□カリフォルニアオフィス……………27</p>
新聞で報道された九州大学	<p>□平成十九年十月〜十一月……………31</p>
九大生が案内する世界のキャンパス	<p>□シエフィールド大学（イギリス）……………33</p>
こんな本出しました	<p>□理系思考 分らないから面白い……………34</p> <p>□大学歳時記……………34</p>
編集後記	<p>……………34</p>

九大

Kyushu University Campus Magazine

広報

vol. 55

2008.1

編集発行 九州大学広報専門委員会
 事務 九州大学総務部広報室
 住所 〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1
 電話 092-642-2106
 F A X 092-642-2113
 E-mail koho@jimu.kyushu-u.ac.jp
 U R L http://www.kyushu-u.ac.jp
 印刷 アイメディア株式会社



□お読みになってのご感想やご意見をお待ちしています。

□投稿をお受けします。文字数は、300字未満。手書きのものも受け付けますが、できればテキストファイルのフロッピーディスク又はEメールでお送りください。可能な限り掲載しますが、本誌の目的や性格に照らして不適当と思われる原稿は掲載しません。

■九州大学関係者が本誌記事を転載する場合は、「九大広報第〇号から」と明記してください。学外の方は、事前に事務までご連絡願います。

■「九大広報」は九州大学ホームページでもお読みいただくことができます。

■次号は、2008年3月発行予定です。

第一回

全学教育優秀授業賞

受賞者座談会

新しい時代の

新しい教養主義を考える

全学教育のあるべき姿とは

淵田 このたびは全学教育優秀授業賞（注一）の受賞おめでとうございませう。賞の背景として明記されているとおり、規範となる先生方が選ばれたわけですが、この賞には教員による推薦、学生による推薦という二通りの枠があります。ここにおられる中で能崎先生は教員推薦、秋吉先生、高瀬先生、スカリー先生が学生による推薦ですが、まずは、受賞の通知を受けた時の感想あたりからお聞きできますか。

能崎 封筒をあけてビックリしました。率直なところ、責任が重いなど（笑）。

淵田 学生推薦枠の高瀬先生はご自分ではどういった点が評価されたとお考えですか。

高瀬 それはよくわかりませんが、ども、選ばれたのは大変うれしかったです。

秋吉 私はどちらかと言えば学生から「難易度を下げてくれ」と要望されるほうだと思います。でも、その中であって受け入れてくれている学生もいるのかなと、ちょっと発見でした。

淵田 スカリー先生はどうですか？

スカリー 九州大学に来て三年目になります。私は英語で学んでいるので学問用語を日本語でうまく説明できず、時々英語で授業

二〇〇七年九月、第一回の全学教育優秀授業賞に七名の教員が選ばれました。これはベストティーチャー賞とも言い、全学教育科目で他の規範となる授業を実践した教員に授与されるものです。今回の座談会には四名の「ベストティーチャー」が参加。国立大学の存在意義にも関わり、それだけに活発な議論が行われている全学教育の本質に熱く迫ります。司会は、高等教育開発推進センター長の淵田吉男教授です。

（注一）全学教育優秀授業賞…九州大学職員表彰規程に基づく教員表彰の一環としての全学教育活動表彰要項が、平成十九年四月一日に制定された。全学教育優秀授業賞は、学期毎に候補者を学生および教員から募り、選考委員会で推薦候補者を選出、総長が決定する。



座談会の出席者。前列左から、スカリー教授、淵田教授。後列左から、秋吉准教授、高瀬准教授、能崎准教授。

をやっているものですから学生はわからないことが多いだろうと思っただけですが、受け入れてもらって感謝してます。しかも、こんな短期間に受賞するなんてとても光栄です。

淵田 私は学生の評価に注目しています。秋吉先生、高瀬先生、スカリー先生も学生評価が高いですし、能崎先生は教員推薦で若干少ないのですが、それでも良いですね。

能崎 試験の時に授業の感想文を書かせ、大体問題点は把握しているつもりです。要望は多かったです（笑）。

淵田 学生たちもいい加減には評価していないということ。全部出席の学生とあまり出席の良くない学生との評価の差もあまりありません。人を見る目は、皆きちんと持っているのですね。ということ。前日に日頃、講義ではどのような工夫をされているかを伺いたいと思います。

スカリー 私の弱点は英語の学問用語を日本語で説明するのが難しいことです。九州大学は留学生に力を入れているということですが、

特に私は自分の海外経験から、日本人学生の背中を押しています。まず日本語で説明し、英語はその後というようにバイリンガルの授業にするよう努力をしています。また、前期のうち三回は学生に紙を配って、授業についてのコメントしてもらおうようにしています。意識しているのは、授業は私のペースではなく、学生と五・五の関係で進めること。学生の意見を尊重し、授業に反映することです。もう一つ、表現力を付けるためにできるだけ指名し、発表させ、グループディスカッションに持っていくようにしています。それをやると、一時間では足りないほど。一人も眠らせないつもりでやっています。その代わり、予習にちょっと時間をかけますね。

淵田 クラス規模は？
スカリー 二〇六人でした。
淵田 二〇〇人を超えると難しいでしょう。
スカリー 難しいです。でも、マイクを持って駆け回り回っている学生はやってくれますよ。

淵田 学生からはやはり「人数が多すぎる」「できたら少人数セミ

多すぎる」

能崎 幸雄 のざき ゆきお

システム情報科学研究院・准教授

1970年生まれ（37歳）・石川県出身。慶應義塾大学理工学研究科（物理学専攻）で博士（理学）を取得後、1998年4月に九州大学大学院システム情報科学研究院電子デバイス工学部門の助手に着任。2006年8月に准教授に昇任、現在に至る。磁性物理・磁気デバイス工学を専門とし、次世代メモリとして期待されている磁性ランダムアクセスメモリ（MRAM）開発に関する研究を行っています。字が下手糞で絵心も無いため、板書での講義が苦手。目下、学生に優しいPowerPointを用いた講義を研究中です。

スカリー 悦子 すかりー えつこ

留学生センター・教授

米国での留学滞在期間15年以上となり、人の約2倍教育時間を費やしました。現地の高等教育は日本とは比べ物にならないほど厳しいもので、学部からのスタートとなり、修士、博士号（Ph.D.）を教授方々のご指導で取得することができました。アメリカ人学生を前に何とか教師として責任をはたしながら、大学ではカリキュラムと教授法を研究課題とし、社会学、言語学、教育学、英語教育、そして多文化教育など幅広く学びました。九州大学へは2005年に赴任し、ふるさとやクラスで、日本人として国益を考えながら世界へ打って出ることのできる人材育成に力を入れています。

高瀬 正仁 たかせ まさひと

数理学研究院・准教授

1951年、群馬県の渡良瀬川の上流に沿う山村に生まれました。東京大学を卒業後、九州大学の大学院に進み、そのまま九大に就職しました。九大の日々は今年で32年目になります。数学の岡潔先生にあこがれて岡先生と同じ多変数関数論を専攻し、同時にヨーロッパの近代数学史を研究しています。九大の六本松キャンパスには、旧制の福岡高等学校のおもかげを宿す「青陵の泉」の碑が立っていますが、通るたびに写真撮っています。歴史はリベラルアーツの泉です。新キャンパスへの全面移転の後、九大の貴重な財産である福高の心が受け継がれるよう、望みつつ案じている今日このごろです。

秋吉 收 あきよし しゅう

言語文化研究院・准教授

1964年生まれ、北九州市出身。九州大学文学部卒、同大学院修了。北京留学、高知・佐賀での教員生活を経て、2005年に九大着任。研究分野は、魯迅を中心とした中国近現代文学、日中比較文学、台湾文学などで、また中国現代作家等の文章の翻訳紹介にも取り組んでいる。

外国語を修得することによって異国の文化を理解し、その国の人々と直接触れ合っただけで信頼関係を構築することが、日本にとっても重要なことだと考えています。

司会進行

淵田 吉男 ふちだ よしお 高等教育開発推進センター長・教授
(専門：大学教育・有機金属化学)



スカリー悦子教授

できた」と評価されています。これが全学教育の一つのあり方だと思えます。

一人一人を大切にする授業

ナーでやってほしい」といった要望が出ています。スカリー先生はそこにもうまく対応したということですね。

スカリー 人数は減らすことができないので、動かないといけない。それと授業が終わると、質問の行列ができるので、その機会を利用してできるだけ学生と話すようにしました。一時間くらいかけたでしょうか。

淵田 いろいろ質問してくれるのは、それだけ熱を入れて授業に臨んでいるということですね。学生からは「留学意欲が非常に高まった」「異文化を理解しようと気が持ちが芽生えた」「物事に対する新しい見方が提示された」「大学での勉強の仕方みたいなものもわかった」「学問に対するモチベーションが高まった」「友達のデビュート、教師との語り合いを体験

淵田 これまで言われてきたのは、一般教育の時にだんだんとヤル気がなくなつて、大学生活をダラダラと過ごしてしまう学生が少なくないこと。モチベーションを維持するだけではなく、高めていくことが私たちの使命です。これも何

度も言うことですが、入試と全学教育の成績は相関がありません。逆に全学教育と専攻教育の相関には非常に強いものがあります。大学での学び方を早くマスターした学生は、後もスクスクと伸びていきます。だからこそ、教員の熱意が強く問われる期間でもあるのですね。

秋吉 授業作りで腐心するのはどのレベルに難易度を設定するかというところ。皆がわかりやすい易しいところに設定すると、頑張る学生には退屈です。ここがいつもせめぎ合いなのですが、九大生なのだからちよつと高いレベルで授業

をしようというのが私の着地点。

今回は中国語という語学ですので、テキストをもとに一つ上のところを目指すことを意識させるようにしました。ボヤボヤしていると置いていかれるという緊張感を持たせるのです。また、私の専門である中国の近現代文学、日中比較文学という領域を活かして、中国語の講義を通してこんなに世界が広がるということもポイントにしました。

淵田 単なる語学習得以上の展開が期待できる。それも一つのモチベーションアップですね。

秋吉 自分の経験ですが、中国語をやると、日本語のことも良くなる。中国は日本との関係が強いですし、そうしたことが実感として伝えられれば、と考えています。

淵田 英語を筆頭に語学がスキル中心になっていつている中で、授業を通して異文化理解までできるのは素晴らしいですね。

高瀬 私は昔風の教養主義を根本に据えています。だから、授業の一番最初に「青陵の泉」の碑の話をするんです。福岡高等学校の話、昔の学校制度の話をするのですが、



能崎幸雄准教授

興味を持つ学生は多いですよ。授業の工夫としては形式的、機械的にならないようになるべく学生と話をする、学生一人一人を大切にするという気持ちを大切にしています。それと難しい問題を出すというのが方針。誰もできないような演習問題を出し、それをも解けるように教えたい。一人ずつ理解の仕方が違うので一人一人に教えたいということですね。

淵田 授業を参観させていただきましたが、非常に積極的に学生に問いかけていらつしゃいました。

高瀬 難しい問題が解けることによつて、喜びや達成感もあるでしょう。

淵田 教えようという気持ちが伝わってきます。教員の熱意が伝わっている非常に大切なことです。

能崎 私の授業科目である電磁気学はわかりづらい概念がいっぱい



秋吉收准教授

出てきます。そこで不評とは聞いていきましたがパワーポイントを使い、わかりやすい図をたくさん使う授業にしました。加えて、本来の内容からは離れるのですが、昔の人はこういう現象に対しては、こういう風に考え、説明しようとしたといった発展の歴史も織り交ぜ、興味を持ってもらえるような授業にしたつもりです。最初から学術的になると、とっつきにくいですし、私は物理系なので、物の道理や物の根本に興味があります。理系の会社に入社したり、研究の道を進むなら、わからないこと、新しいことを追求していく心、知りたいという欲求を大事にしてほしいですから。

淵田 確かにコレを勉強すると、次にコレがわかるというのは有効な動機付けですね。それとパワーポイントは一般的には不評だとよく言われていますが、学生の評価はそうじゃないんですよ。「プロジェクターを使った授業は書くほうに意識を取られすぎく良かった」という学生コメントがあります。パワーポイントでどんどん授業されたら付いていけないけど、やり方次第ということですよ。でも、能崎先生は張り切りすぎて授業時間が延長するんですね(笑)。

能崎 出欠も兼ねて授業の最後に毎回簡単な演習問題を出しています。難易度的には十分程度でできるものにしたつもりでしたが、なかなか時間内に解くことが難しかったようです。ところが、感心なことに大半の学生ができるまでやる。それで次の授業が始まってしまふのです。最初はレポート形式にしようと思ったのですが、それだと顔が見えないし、本当にやるかどうかともわからないですからね。

基礎を学ばせるには、少人数教育が有効です。そのためにも先生のほうからどんどん手を挙げて授業に出てきてほしいところなのです。そういう意味では少なくとも授業規模のなかで、先生方がすごく授業運営に努力されていて成果を上げられていることに対して、またそのような先生方に賞を与えられたことを私も胸を張っていられます。

能崎 僕が教えたのはまだ二年生だったのですが、まだ学習意欲が衰えていない。それを何とか保つて専攻へ行かせたいと思いましたが、かといってあまり簡単にし過ぎても役に立たないですしね。

淵田 学生に迎合してレベルを落とすのではなく、一定のレベルをきちっと保ちつつ、先生と学生の双方でレベルを引き上げていくということですね。

**知識欲、好奇心旺盛に、
大学という知の森を
楽しもう。**

淵田 幅を広げるとというのが全学教育の一つの目的です。そこで、十八年度のカリキュラム改訂では、

これまで履修区分のなかった教養教育科目についてはつきり文系コア、理系コアに分けてそれぞれ必修枠を設けました。私が四月の教養教育のガイダンスで言うのが「一休さんになれ」ということ。「今まで偏差値教育の中で一生懸命勉強してきたのだから、ここで一休み一休み。いろんなことに興味を持って取れる単位を取ったらいいのだから」とそういう話をするんですが、なかなか。特に工学部の学生は早く専攻をやりたいと言うのです。狭い領域を研究しても時代とともにアツという間に陳腐化します。そんなことよりいろんなことに対応できる底力をつけていくほうがよほど良いのです。ところで、実際問題、高校時代代理系に進む生徒が物理を取ってきていないといったことなどは致命的ですよ。



高瀬正仁准教授



淵田吉男教授

能崎 そうですね。

淵田 化学だって結合論などの基礎は物理。万有引力の法則も運動の法則も知らない状態で、教えるのは本当に難しい。今の全学教育はまだ寄せ集めの感がありますが一応様々な科目を置いて、少しでも興味を広げてもらうようにしています。次のモチベーションにつながる想定していろいろ工夫していますが、まだまだ学生は理解してくれないのが現状です。仕掛けを置いて、強制するのではなく、本来は自ら動くべきことなのではないか。

見ているイメージがあります。理系は専攻ありきで、関係ない科目はやろうとしませんね。

淵田 知識欲ですか。それはこれからの学生に何より求めたいことですね。

能崎 大学で育てるといよりは、大学に入るまでもいろいろなことが勉強できると思うのです。私の高校時代では何でもガツガツと吸収しようという人間がもう少し多かったです。そういう姿勢をもった学生だと、私たち教員としても楽しいのです。

理科も文科も、中国語も韓国語もドイツ語もフランス語も何でもできる学生になってほしい。

淵田 他に今の学生に求める資質はあるでしょうか。

高瀬 私の感じでは学生は自分たちのレベルの世界を持っています。そのレベルは決して低くないと見ています。大学受験の時は受からないと仕方ないですから、受験勉強にはまって視野が狭くなるのは仕方ない。それで九大に入ってきたんですから、少しくらい成績が

悪くても、教員もあきらめず何とか一人一人引き上げていきたいです。そのためにもどうするかというところ、できる限りコミュニケーションして、お互いに理解できるようにしたい。つまり、先生と話をしてもらいたいということです。

学生は学生で教員と話しても通じないと思っているのではないのでしょうか。デカルトやパスカルを知らないと言くと、正直ビックリしますが、彼らは彼らなりにそんなこと知らなくなっているという最近の若者は物を知らないというのではなく、違うことを知っているという気がしますので、そこを理解したいですね。それと視野が狭くなるのは、教養部が解体されたところに、早く専門に行かなければならないという議論があったんじゃない。あれをもう一度反省して、新しい時代の教養主義を発見したものだと思います。考え方としては男女共学の旧制高校がいいと思います。教養科目を軽視したら専門学校になる。そうはなってほしくないですから。

淵田 やはり九州大学は総合大学で、いろんな先生がいるのですか

ら、その資源を学生は十分活用すべき。そのためにも全学教育と専攻教育の齟齬を解決して、本来の意味での教養教育を実現しなければならぬ時期に来ています。どういった人材を育てていくのかをしっかりと見据えて、どういう教養教育が必要か、専攻教育、全学教育も含めて学士課程教育をトータルで考えていくべきです。

高瀬 理科、文科とはつきり分けるのもあまりよくないかもしれませんが。理科もよく知っている文科の学生、文科にも通じている理科の学生というふうになってほしいですね。

淵田 環境問題一つ取り上げても、理科的な要素もあれば、文科的な経済要素もあつたりします。

高瀬 外国語も一つや二つじゃなくて、中国語も韓国語も、ドイツ語もフランス語も何でもできるような学生になってほしい。

淵田 「文理両道」の学生育成ですが、例えば物理学でも文系対象、理系対象で教え方は違ってくるのではありませんか。

高瀬 そうでもないと思いますよ。例えば、保健学科の学生などは将

来数学を使うことはないと思えます。でも、工学部や理学部に教える数学と違うわけじゃない。同じノリでいいし、そのほうが面白い。相手がどんな学生でもなるべく難しいことをわかるようになってもらいたい。この方針でいけるんじゃないかと私は考えています。

スカリ アメリカの大学は最初から学部が正確に分かれていないところが多いですよ。最初の二年ぐらいで教養のようなものを受けさせて、そこでGPA（注二）の上のほうをすくっていく。コンピュータサイエンスなどや法学部もGPAトップ何%から取るわけですよ。つまり、大学に入って進路を変えるチャンスもあるということ。それができないのは逆にかわいそうだという気がします。

淵田 縦割りではなく、いわゆるリベラルアーツを競うということですね。

スカリ せっかくGPAを取り入れるのならそこを利用しないと。**高瀬** むかしの旧制高校はそうでした。理科も文科も区別がなく、何を勉強してもいい。リベラルアーツですよ。いよいよ大学に入っ

たら今度は専攻科目に分かれて専門の勉強ばかりやるのです。

スカリ それと世界の研究者と話す時に、教養教育が不十分だと話が成立しません。コミュニケーションというのは大学での教育が非常に影響すると思います。今後はいくら専門が強くてもまず教師の方が通用しなくなるかもしれません。

淵田 最後に先生方のこれからの抱負をお聞かせいただけますか。

秋吉 やはり教養教育という問題になっていくと思えますが、優秀な研究者とは自分で問題を立て、その問題の価値を作っていく人です。そこから次の研究論文が生まれるのですが、自分の専門しか



見ていないと、早々に行き詰ります。人が考えられなかったこと、常識的ではないことを考えられるエネルギーを生み出すのは該博な知識であり、多面的な見方です。

先ほどスカリ先生が言われたように、いろいろなこと、しかも高いレベルでのいろいろなことを見る必要があるという意識付けが重要だと思います。

スカリ もっと教師側も勉強しなくちゃいけないと思いますね。

オープン教室にしたり、お互いに高め合わない。先生だからといって、上からのワンウェイ教育方式では困ります。先生が教養を身に付け、自己練磨すると、学生もついてくるんじゃないでしょうか。海外のクラスを見に行くとか、お互いに情報やノウハウを提供しあう機会が増えてもいいと思います。

能崎 今回は教えながら勉強させてもらった感じですが、全学教育で「この授業つまらない」と思われないためにも、学生のニーズがある程度知りたいですね。そして、わからないことなど積極的に聞きに来てくれるようになるのと、楽しい授業になると思うのですけど。

見ていると、早々に行き詰ります。人が考えられなかったこと、常識的ではないことを考えられるエネルギーを生み出すのは該博な知識であり、多面的な見方です。先ほどスカリ先生が言われたように、いろいろなこと、しかも高いレベルでのいろいろなことを見る必要があるという意識付けが重要だと思います。

高瀬 最近の学生はダメだという見解はタブーにして、何とか皆をすくい上げていきたいです。例えば、具体的には高校の教科書をどのように習ってきたか、学生に聞いてもあまり答えないから私自身で勉強して知る努力をしています。それがコミュニケーションの第一歩だと考えるからです。

淵田 今度新しく高等教育機構ができました。その中で私たちも教育改革研究会というものを立ち上げます。センターとして「リベラルアーツとは何か」「いわゆる九大版のリベラルアーツを探そう」ということでセミナーを開いていくので、先生たちにもどんどんご参加いただければと思います。今日のお話から皆さんは、基本的に教育に対して同じ考えだということを確認できました。今後ともぜひ規範となる先生として、全学教育、専攻教育にご協力下さればと思います。今日はありがとうございました。

（注二）GPA…アメリカ等の大学で導入されている成績評価システム

この座談会は、二〇〇七年十一月十三日（火）、伊都キャンパス・ウエスト二号館一〇五四号室で行われました。

「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に三件採択

「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」は、文部科学省の支援事業で、社会的要請の強い政策課題に対応したテーマ設定を行い、各大学・短期大学・高等専門学校から申請された取組の中から、特に優れたものを選定し、財政支援を行うものです。本学は、一大学の申請件数の上限である三件を申請し、全て採択されました。

現代的教育ニーズ取組支援プログラム

地域環境・農業活用による大学教育の活性化

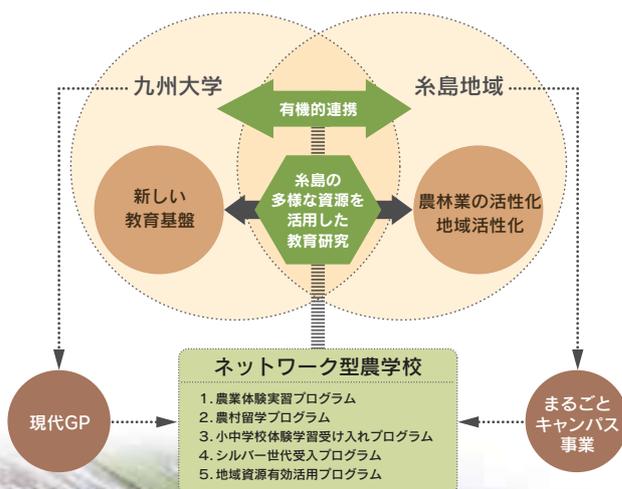
このプログラムでは、九州大学と伊都キャンパスがある糸島地域（福岡市、前原市、二丈町、志摩町）が有機的連携を図って、農業を基盤とする地域の持続的発展と調和した新しい全学生教育学習基盤の形成を目指します。すなわち、糸島地域に分散する田畑、果樹園、畜舎、施設等の農業生産基盤、森林、ため池、河川、海浜、里山等の環境資源、地域固有の歴史的・文化的資源等を集約したネットワーク型農学校を創設し、これを核にして参加型・体験型の学生教育・地域活性化プログラムを築きます。具体的には、次の五つのプログラムで構成します。

- | | |
|---|-----------------------|
| 1 | 農業体験実習プログラム |
| 2 | 農村留学プログラム |
| 3 | 小中学校体験学習受け入れプログラム |
| 4 | シルバー世代受入プログラム |
| 5 | 教育研究のための地域資源有効活用プログラム |

学生は、体験学習や世代間交流を通して、食、環境、地域文化等に対する優れたセンスや自らの課題設定・解決能力を養います。さらに、地域での人的交流を深化させて、コミュニケーション能力、マネージメント能力、ファシリテーション能力を養成します。このプログラムで得られた成果については、地域への還元を行うって、地域社会の活性化を促進するよう図ります。

農学研究院教授
（農学部附属農場長）

中司 敬



医療コンテンツプロデューサー育成事業

従来の医歯学教育では、学生にボランティア患者を診療させることによって臨床実習を行ってきた。しかし、患者意識の変革に伴って、ボランティア患者は激減しています。そのため、これまで以上に患者視覚情報コンテンツ（患者様の写真や動画）を充実させ、患者の疑似経験や患者視覚情報コンテンツを活用したシミュレーション教育により

疑似診療経験を積ませる必要があります。幸いにも情報技術の発展に伴い、動画や三次元ホログラムなどの高度情報コンテンツの創造が可能になってきました。一方、インターネット等を通じて患者情報が流れた場合における回復処置は極めて困難です。したがって、患者視覚情報コンテンツの不特定化および権利処理を適切に行い、医療コンテンツの保護および活用を行う医療コンテンツプロデューサーの養成を行う必要があります。

本取組においては、権利関係や情報処理の専門家と連携して、医療コ

ンテンツの創造、保護、活用に関する医療コンテンツプロデューサーや医療コンテンツを理解できる指導的医療従事者を育成いたします。

歯学研究院長

赤峰 昭文



動画による高密度情報

間違い探しを基盤とする洞察力育成医療教育

患者は個々の疾患のみを治療する医療従事者ではなく、患者の状態を総合的に判断し、最善の治療を行う医療従事者を求めています。したがって、医療従事者教育においては医療に関する基盤的知識の教授、十分な臨床経験の付与だけでなく「洞察力育成」が求められています。しかしながら、これまでの医療従事者教育においては医療において必須の洞察力育成が十分に行われていませんでした。

本取組ではICTを利用した「間違い探し」によって学生の洞察力を育成します。学生は与えられたコンテンツの中にある不定数の間違いを探し出すことにより洞察力を育みます。「間違い探し」においては学生に正答情報だけでなくフィードバック情報も提供し、深い基盤的知識も教授します。また、「間違い探し」を動画コンテンツでも行うことにより疑似医療経験もあわせて付与します。

さらに、学生の個別学習到達度情

報、領域正答率情報等を教員にフィードバックすることによって、個別指導、教育内容改善に活用します。

歯学研究院長

赤峰 昭文



静止画間違いコンテンツ



動画間違いコンテンツ

不定定数の間違い探しを行うことにより学生の洞察力を育成する。
 (左) 手袋をしたままパソコン操作 (不潔操作) をしている。
 (右) 頭: キャップをかぶっていない。 口: マスクをしていない。
 手: (左右とも) 手袋をしていない。

「ふろんとランナー」は、九州大学の研究の最前線をインタビューで紹介するシリーズです。シリーズ第六回目は、工学研究院の山本元司教授に、歯学研究院の中島昭彦教授が聞きます。

聞き手 歯学研究院 中島昭彦 教授

VOL
6

自律知能移動ロボット・窓ガラス清掃ロボットを皮切りに九州大学ロボットキャンパス化を目指す

九州大学をいろいろな

ロボットが動き回る

ロボットキャンパスに

中島 先生は「自律知能移動ロボッ

ト」の研究をされていますが、まずその研究の特色について私たちにもわかるように教えていただきたいと思えます。

山本 移動ロボットの典型的な姿が車輪の付いた電動車椅子のようなもの。コンピュータを搭載しセンサーで状況把握して動き回ります。昔から活発に研究されてきている分野で

すが、実用化されるまでに至っていないのが現状です。これまでロボット技術は産業用ロボットのみに応用されてきたといってもいいでしょう。

産業用ロボットは据え付けてある範囲でしか動かないのに対し、移動ロボットはあちこちに行ってしまう。そのために段差に対応できる能力など周りの状況を的確に判断する様々なセンサーやカメラ、画像処理機能が求められます。私が直近で取り組んだのは、比較的簡単なセンサーでふつうの部屋くらいの空間であれば

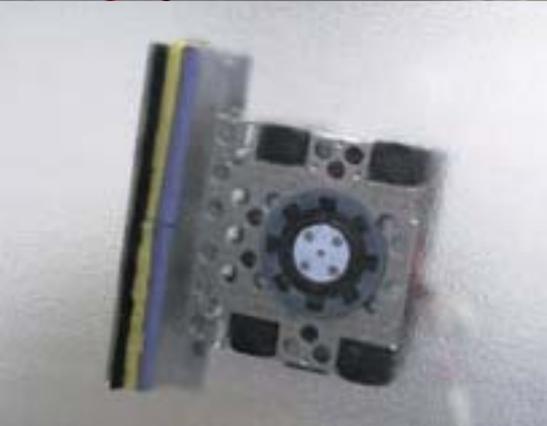
ロボット工学

工学研究院 教授

山本元司

やまもと

もとじ



写真上：ガラス窓に吸引しながら自在に移動掃除可能な窓ガラス清掃ロボット。
写真下：ロボットを裏から見たもの。吸引のためのスカート部（丸い部分）とガラス清掃部（黄色の長い部分）が見える。



自分がどこにいて、どういう状況がわかり、かつ確実に目的地までたどり着ける、というロボットです。提案ポイントは衝突回避のためのセンサーシステムと目的地点に自律的に到達するための誘導制御です。

中島 今まで作られていたヒューマノイドロボットは自律的に動くレベルまではいってなかったのですか。

山本 想定外の障害があるとなかなか歩けません。どこでも動けることを「自律性」と言っているのですが、最新のロボットでも難しいですね。

中島 先生が開発されようとしているロボットはつまりその「自律性」があるということですか。

山本 衝突回避に関しては実際の動作時における様々な誤差による不具合をなくし、また、誘導制御手法は

ロボット搭載可能なセンサーからの情報のみを用いることで、従来必要だった障害物に関する詳細な情報が不要になり、自律性が高まりました。

中島 そのロボットは何ができるのでしょうか。いくつか例を挙げていただけますか。

山本 掃除、警備などです。産業用ロボットに対して、サービスロボットと定義される分野です。

中島 先生は「窓ガラス清掃ロボット」開発にも取り組まれていますね。

山本 伊都キャンパスの窓は汚れやすく、清掃費用がかかります。窓ガラス清掃には危険も伴います。そこでまず窓ガラス清掃ロボットのいいものを作ろうということになったのです。これは「P&P」のうち九州大学学術研究都市づくり関連研究の一

環としても位置づけられています。これを皮切りに九州大学のキャンパス中をいろいろなロボットが動き回るようなロボットキャンパスの先駆けにしたいと夢を膨らませているところです。

頭で考えたように物が動く面白さが、工学の原点

中島 人間にはできないことをロボットサービスでカバーしていけたらいいですね。

山本 人間ができないことというよりも、いろんな問題で人がやらない

ほうがいい部分を担うのがサービスロボットの役目かなと考えています。窓拭きは人でもできるけど、ロボットがすれば危険やコストの問題をクリアできる可能性があります。このようにサービスロボットは清掃、福祉と様々な分野で役立つはずなのですが、残念ながら産業としては確立されていません。産業用に比べ、比較的単純なロボットなので関心の対象になりにくかったという背景もあります。そんな時に米国で床を掃除するロボットが発売され、大ブレイクした時は我々としては「シマッター！」という感じでした（笑）。もと

（注）P&Pとは、「九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト」の略です。九州大学独自の制度で、様々な分野やレベルの教育プログラム、研究プロジェクトに一定の期間研究費等の重点配分を行い、本学の教育と研究の一層の発展を図ることを目的とするものです。

もと需要の大きいロボットですし、日本の家電メーカーも研究していた分野だったのです。役立つものをきちんと考えてロボット技術を投入すると、いいものができる分野はたくさんあるという教訓です。

中島 介護ロボットなどになると、単に人間の真似だけでなく、物を柔らかくつかむといった優しい動きも求められてきますよね。

山本 従来の機械工学の考え方は早く高精度に確実に動くことが第一義でした。しかし、今からのサービスロボットは人がいるところで、人と触れながら動かないといけません。福祉ロボットはその典型で、動きが早いことや固いことはマイナスになります。私は安全性の高い動きが大きな課題だと思っていて、ワイヤーで物を拘束して動かす、物に当たっても柔らかく逃げてくれるといった

ものを研究しています。精度は出ませんが、安全性が高まります。

中島 癒しという意味では将来、表情や皮膚感も人間とそっくりなロボットが登場してくるのでしょうか。中途半端に近づくと不気味になるという話もありますか(笑)。

山本 ロボットの外見が人間とそっくりになる事にはさほど興味を持っていません。ただ、ロボットの動き自体には興味があり、人の感情、喜怒哀楽を生起させる動きを調べるために「感性ロボット」というロボットにも取り組んでいます。ロボットがいる生活と人の心の関係もきちんと考えていたほうがいいと思うのです。

中島 いろんな研究領域が広がっていくのですね。ところで先生が工学系への興味を自覚されたのはいつ頃なのでしょうか。

山本 中学生時代は電気工作が好きで、先生はご存知かも知れませんが、真空管ラジオなんかも作りました(笑)。ただ、今の研究に直結しているのは院生の時、コンピュータの裏に拡張ボードを作って埋めたり、モーターのアンプ、インターフェイスの回路も全部自分で手がけて物を



聞き手：中島昭彦教授

動かしたという経験です。実際に動いた時、非常に感動しました。「世の中の物を動かすにはこんなふうにすればいいんだ」とわかってすごく面白くなったのです。今の子どもたちと違って、コンピュータに触ったのも大学に入ってからですが、頭で考えた動きをコンピュータを使って実現するというのは無条件に面白いのです。

中島 先生は二〇〇五年度から「ITクラフトマンシップ事業」に参画され、小・中学生を対象にものづくりを教えていらっしゃるようですが、子どもたちの反応はどうですか。

山本 昔の子どもは特にモーターを使ったおもちゃを使って遊んだもの

です。今、子どもの遊びがコンピュータの画面だけのビデオゲームになってしまっているのは非常に寂しいし、良くないことじゃないかとずっと思っていて、子どもたちにはもっとロボットのなおもちゃ体験をしてほしいと考えています。

中島 バーチャルではなく、実際に動かすということですね。

山本 自分が動かしたいものを動かそうとすると、自分で考えて実現する能力が必要になってきますからね。

中島 創造力ですね。

何にでも興味を持ち、

いろいろなことを経験しよう。

ものづくりという

創造人間になるために。

山本 先ほど柔らかな動きを出すためにワイヤーで物を拘束して動かす、という研究に触れたのですが、例えば、人の指はある意味、物を動かす装置で、ワイヤーは腱にあたります。小さな力で物を動かす研究の中でそうした人体解剖学的な分野にもたくさんヒントはあるのですが、私自身はだからといって人体解剖学を知りすぎるのは良くないと考えるほうです。

中島 それはなぜですか。

山本 参考にはなるが、人体解剖学

の足場に促われてしまう危険もあるからです。結果的に生体の動きをどう工学的に実現するかというストーリーをなぞる作業になってしまい、創造力が出る幕があまりなくなってしまう。それはそれでいいという人がいるかもしれませんが、でも、ベストかという点、たぶん違うと思うのです。よりよいスマートなアイデアがあるかも知れないと考え続けたいですよ。

中島 おっしゃっていることがわかるような気がします。創造には知識もだが、それ以上にモチベーションが大切ということ。私たち医歯系でも偏差値の高さだけでなく、本当に医療に興味や生きがいを持っている高校生を受け入れたいというのが大

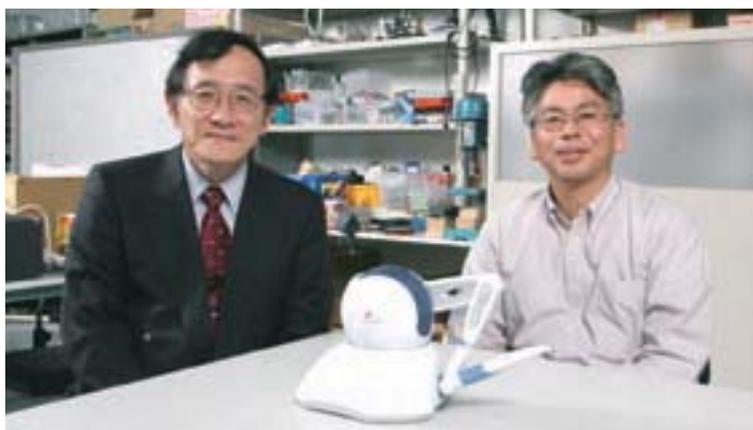
きな課題になってきています。

山本 毎年ある公立の進学校を訪問、実験の指導に当たっているのですが、今、高校はどういう状況かという点、受験勉強一色なのですね。一年生の時から補習があるのには驚きました。自分から面白そうなることを見つけて好きなことをやる時間を確保するのは今の時代、難しいのかもしれないけど、それはぜひやらないと。「受験勉強ができただけでは、社会に出た時に、あまり役に立たない人になってしまおうよ」とアドバイスしたいですね。私のいる機械航空工学科も近年、偏差値が高くなり、勉強のできる人ばかりになってしまったのですが、以前は「NHKのロボコンに参加したくて来ました」というモチベーションの高さを感じさせる学生がいたものです。ものづくりには、興味や好きという気持ちが必要。そのためにも、高校時代は何にでも興味を持って、いろいろなことを体験してもらいたいと願っています。

中島 本日はどうもありがとうございます。ぜひそれを未来の九大学生たちへのメッセージにしたいと思います。



山本元司教授



山本元司教授（右）と、聞き手の中島昭彦教授。
机上は「身体表現用小型ヒューマノイドロボットディスプレイ」

山本元司 教授 プロフィール
一九六二年七月生まれ。山口県宇布市出身。九州大学工学部動力機械工学科卒業。これまで自律知能移動ロボットの研究、サービスロボット、ワイヤ懸垂型ロボット、医療福祉ロボットの研究に従事。NHKロボコン、ロボカップ、ロボワン競技などロボットコンテストにも積極的に関与し、ロボットづくりによる科学教育にも取り組む。

研究

—最近の話題から

グローバルCOEプログラム

「グローバルCOEプログラム」は、文部科学省が「21世紀COEプログラム」の基本的な考え方を継承しつつ、我が国の大学院の教育研究機能を一層の充実・発展させることを目的として実施する事業です。平成十九年度に採択された二つのプログラムをご紹介します。

個体恒常性を担う細胞運命の決定とその破綻

私たちの体は約六十兆個の細胞から成り立っていますが、元々はたった一個の受精卵が増殖し、分裂してできあがったものです。ところが細胞の増殖はある時期がくると自然に停止し、いろいろな細胞、例えば神経や筋肉、骨、血液、皮膚、消化管などに形を変えていきます。このように私たちの体は、細胞の増殖と分化のバランスによって常に一定の機能を発揮できるような仕組みが作られています。この仕組みに異常が生じると、がんなどの病気になると考えられています。ところがこのバランスを司るメカニズムについては、ほとんど解明されていません。

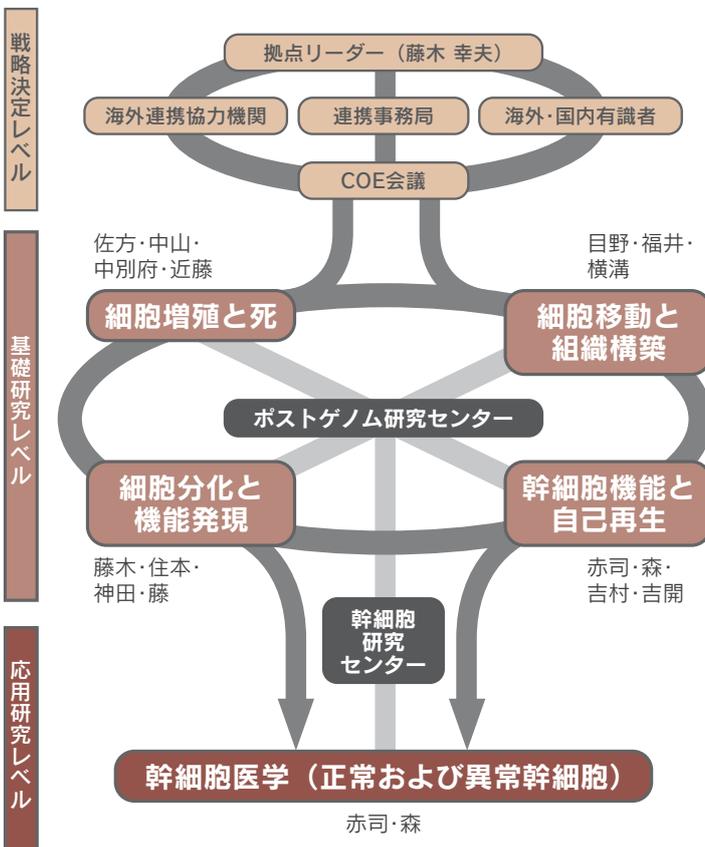
グローバルCOEプログラム「個体恒常性を担う細胞運命の決定とその破綻」では、21世紀COEプログラム「統合生命科学—ポストゲノム時代の生命高次機能の探究」（平成十四〜十八年度、代表・藤木幸夫）の成果と個体恒常性の概念を融合・発展させ、このメカニズムを明らかにすることによって医学への応用を図るとともに、臨床の現場の問題を基礎生命科学へフィードバックすること、個体恒常性を担う細胞運命決定のメカニズム解明と幹細胞生物学として医療応用の基盤構築に関する新しい世界最高水準の教育研究拠点の形成を目指します。



拠点リーダー

理学研究院・生物科学部門

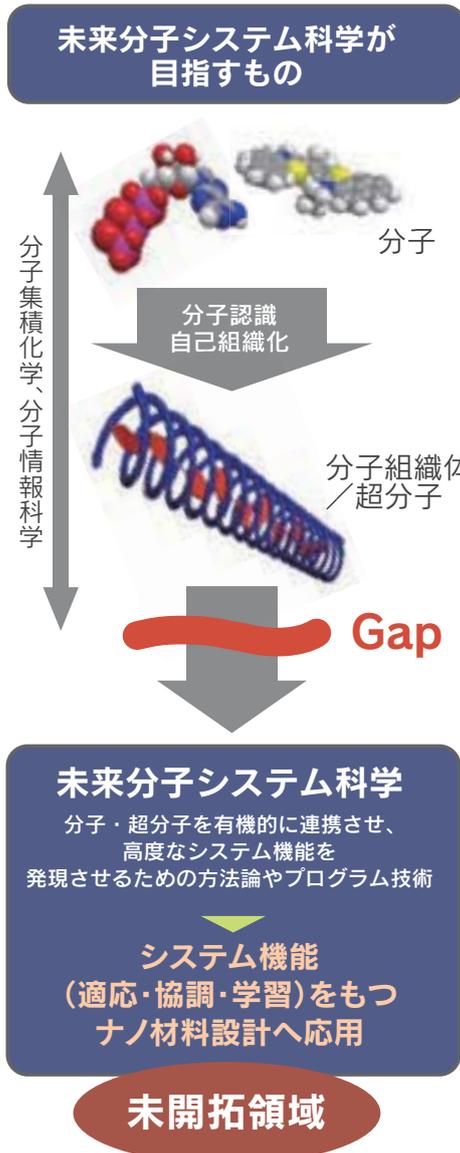
藤木 幸夫 教授



未来分子システム科学

人類の未来に対して化学の貢献が特に期待されている分野に、地球環境保全に関わる高効率の物質変換・エネルギー変換システム、革新的な医療技術の基礎となるナノデバイスや生体情報に应答する治療システムの開発などがあります。これらの分野で要求される機能は、もはや分子単独のそれではありません。高度な機能を示す分子システムや、生命分子システムの中で機能する分子が必要とされます。

グローバルCOEプログラム「未来分子システム科学」では、これまで九州大学が卓越した成果を誇る「分子集積化学」や「分子情報科学」の成果と、「生命システム」における自己組織化や機能発現の原理を融合し、新しい機能分子システムの設計や開発に関する学際的な化学の新領域開拓を目指します。つまり、分子・超分子を有機的に連携させ、高度なシステム機能を発現させるための方法論やプログラム技術の開発を行って、システム機能（適応・協調・学習）を持つナノ材料の創製につなげます。このように、新しい機能分子システムの設計や開発に関する最先端の教育・研究を行う「分子システム科学」の国際的教育研究拠点を構築します。



拠点リーダー
工学研究院・応用化学部門
君塚 信夫 教授

次世代研究スーパースター養成プログラム（SSP） 研究プロジェクト

前号に引き続き、次世代研究スーパースター養成プログラム（SSP）―平成十八年度科学技術振興調整費「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」事業―で進行中の研究プロジェクトと、SSP学術研究員を紹介いたします。

感性を切り口とした「心」の科学拠点の創成 （人間環境学研究院、システム情報科学研究科）

SSP学術研究員

河邊隆寛、松本斉子

ヒトに関わる様々な分野で感性の重要性が謳われておりますが、感性を支える心のしくみの理解なしには、真の意味での感性理解や感性研究の他分野への応用は難しいでしょう。本プロジェクトでは、基礎研究を通じて、感性を切り口にヒトの「心」のしくみを総合的に理解することを目的としています。特に知覚心理学、認知心理学的手法を用いることで感性の基盤となる心のしくみの科学的解明を目指しています。具体的な研究内容としては、①感性の基盤となっている知覚レベルでの感覚情報の統合メカニズムの解明、および②感情、意図、信念、思考、思想など、認知レベルでの高次感性メカニズムの解明です。また、本プロジェクトは人間環境学研究院とシステム情報科学研究科が共同で立ち上げたものであり、感性に関する文理融合研究を行うことを視野に入れ研究活動を行っています。



（左から）松本斉子、河邊隆寛

超分子ナノデバイスフュージョンプロジェクト （工学研究院）

SSP学術研究員

藤ヶ谷剛彦

本プロジェクトでは、超分子科学と分子ナノデバイスを融合させた新しい分野の創成を目指した学際的研究を展開します。すなわち、超分子化学を基盤としたボトムアップ手法と半導体リソグラフィに代表されるトップダウン手法のデバイス化テクノロジーを融合することにより、革新的な分子ナノデバイスの基盤技術をデザイン、創製するプロジェクトです。ここでは、既存の手法にこだわらず、これまでになく新物質、新手法を駆使した新しい世代の自由な発想をベースとして、新しい世代の自由なコンセプトに基づく研究を推進します。そのためには、従来になく新しいタイプのナノ物質、材料のデザイン、合成が重要であり、またそれらの特性をナノデバイスに組上げる分子アーキテクチャーが必要となります。本学は材料を作る技術、およびそれを評価する技術に関してはインフラと共に世界有数のクオリティーを誇っていますが、本プロジェクトにおいては培った要素技術を結集し実デバイスへの昇華を試みます。



藤ヶ谷剛彦

数学・数理科学における未解決問題挑戦プロジェクト （数理学研究院）

SSP学術研究員

高木俊輔、吉田寛

本プロジェクトは、数学および数理科学における次世代のスーパースターの養成を目的とし、将来の数学の発展と深化、そして数理科学の新領域の創出を目指すものです。

高木研究員は、わが国の数学のなかにあつて二人のフィールズ賞受賞者を輩出した誇るべき代数幾何学の伝統の上にたち、代数多様体とよばれる方程式で定義された図形の研究を行い、受賞者である広中平祐博士の特異点解消理論、森重文博士の三次元極小モデルの理論をさらに高次元に推し進める「極小モデルプログラム」の解決に専念しています。吉田研究員は、「薬物動態の代数的手法による解析」および「細胞における再帰的増殖と形態の多様性の両立条件—方程式の導出に向けて—」という、世界を先導する、いわば生物代数学の創始的研究に全力を傾注している開拓者です。前者は純粹数学という人類の文化を高める研究に邁進し、後者はまさしく数学の新しい研究領域の創出を目指しています。



（左から）高木俊輔、吉田寛

時空間階層生命科学 （理学研究院）

SSP学術研究員

川島雪生、谷元洋、水野大介、向井貞篤

生体中には原子から細胞・組織に至るまで、時間的・空間的スケールの異なるさまざまな静的・動的構造が階層的に存在し、これらの競合と協調によって高度で多彩な生命現象が営まれています。本プロジェクトでは従来の学問分野および研究手法の枠組みを越えた新たな極限環境生命科学、非平衡生命科学、理論生命科学、動態生命科学の四つの分野の研究を推進することで、生体分子複雑システムとしての生命の構築原理を解明し、生命科学の新たな基盤を確立することを目指しています。

理学、特に物理学および化学的な方法論は現代の産業を支える基盤として、「物質科学」の分野で人類に多大な貢献をしてきました。二十一世紀は「生命の時代」であるといわれ、今後、「生命現象の解明」の重要性が増すと考えられます。こうした現状から、本プロジェクトでは、「生命現象の階層性」に注目して分子から細胞さらには個体に至るマルチスケールの現象を継ぎ目なく理解するための手法や方法論の開発を目指すとともに、世界的なレベルで新たな生命科学の研究拠点の形成を目指しています。



（右上から時計回りに）川島雪生、谷元洋、向井貞篤、水野大介

食シグナルバイオロジに支援された植物サイエンスの拠点形成 (農学研究院)

SSP 学術研究員

中村崇裕、松下智直

今日、食料問題や地球環境問題は、二十一世紀を担う我々の大きな課題であり、植物の研究とその応用展開に期待が高まっています。同時に、植物はヒトの生活の「食」を大きく支えています。植物の大きな特徴は光エネルギーの利用で、例えば、光合成によって光と二酸化炭素と水から炭水化物と酸素を作ることが出来ます。本プロジェクトでは、植物特有の現象を基礎から応用まで一貫して研究することで、「食」や「環境」に役立つ植物の効率的な利用と革新的な技術の創出を目指しています。具体的には、①光合成や様々な代謝物の合成を担う葉緑体やミトコンドリアなどの細胞内小器官、②光を情報として捉えるために植物が構築した光受容体とそのシグナル伝達機構、に着目し、効率的な栽培法の確立や有用植物の作出を目指します。一連の研究開発を通して、農学研究内外との有機的な連携体制を確立し、ヒトの生活を支える「農学」に資する植物サイエンスの拠点形成を目指します。



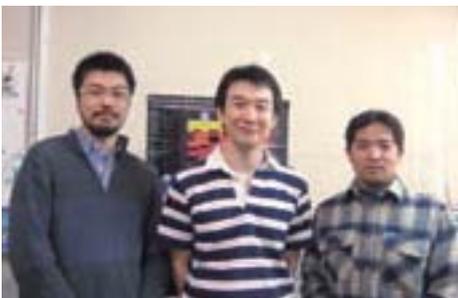
(左から) 中村崇裕、松下智直

生体防御におけるポストゲノムサイエンス (生体防御医学研究所)

SSP 学術研究員

稲葉謙次、石谷太、鈴木淳史

生体防御医学研究所では「生体防御」という生命現象の本質に迫る基礎研究を展開するとともに、生体防御の破綻による難治性疾患の発生機序の解明と診断、治療法の確立を目指した応用研究を推進しています。本プロジェクトでは、すでに整備しているポストゲノム三領域 (構造生物学、情報生物学、発生工学) に加えて、新たに蛋白質化学分野、細胞統御システム分野、器官発生再生学分野の三分野を設置し、ポストゲノム科学にもとづく「生体防御」研究をさらに強力に推進します。①蛋白質化学分野では蛋白質ジスルフィド結合を中心に細胞における蛋白質品質管理に関わる分子ネットワークについて、②細胞統御システム分野ではシグナル伝達のライプイメーシングをもちいた細胞ネットワークについて③器官発生再生学分野では幹細胞を中心に器官形成ネットワークについて、それぞれプロテオミクス、ケミカルバイオロジ、バイオイメージングなどの多角的アプローチにより究明し、「生体防御」研究を推進します。



(左から) 鈴木淳史、石谷太、稲葉謙次

次代を担う若手研究者が総長を囲む懇親会を開催

平成十九年十一月十四日(水)

「次世代研究スーパースター養成プログラム (SSP)」に参加する学術研究員が一堂に会して懇親会が催されました。梶山総長と村上理事からの激励のメッセージで開会となり、若手研究者の皆さんは、日頃接する機会のない総長・理事や他分野の研究者との交流を楽しみ、刺激を受けていました。参加した役員や教員からは、本学の次代を担う若手研究者の活躍に大きな期待が寄せられました。



九大人が伝える

進化する 文化の 遺産

シリーズ九大人
インタビュー

大学院生物資源環境科学府 修士二年

濱田 翔平

はまだ しょうへい

福岡国際マラソンで学生一位(総合三十二位)



2時間24分57秒のタイムでゴール

— 十二月初旬に行われた第六十
一回福岡国際マラソン選手権大会。
強豪がひしめく中、学生では一番
の好成績を収めたとお聞きしまし
た。濱田さんが陸上を始めたきつ
かけは何ですか。

濱田 小学五年生の頃、学校の持
久走大会で一番になり、そのとき
の担任の先生から「本格的に練習
して大会に出て走ってみたら」と
勧められたのが陸上を始めたきつ
かけです。

— 陸上部の練習は毎日ですか。
年間でどれくらい大会に出て走っ

ていますか。

濱田 陸上部には現在約七十人が
所属しています。経験者も多いで
すが、「陸上を楽しむ」を目的に
していますので、大学から陸上を
始めた人もいます。全体練習は週
三回あり、練習がない日も自主練
習して、年間ではトラック走を含
め二十回くらい大会に出場して走
っています。福岡国際は大学四年
生のときに初めて出走しましたが、
今回が一番の好成績でした。個人
的に、トラック走よりロードレー
スが、ペース配分が難しい下りよ
り上りが好きですね。

— 今まで出た大会で、何か特別
な印象のある大会はありますか。

濱田 毎年、長崎の島原・雲仙で
行われる九州学生駅伝対校選手権
大会ですね。私の好きな上りもあ
りますし(笑)。大会にはオーブ
ン参加も含め、九州内の三十校あ
まりの大学が参加します。他には

北大、東北大、東大、名大、京大、
阪大、九大の七校で競い合う七大
戦でしょうか。主幹校のときは運
営など大変ですが、他大学の学生
と知り合うことができ、他の大会
とはひと味違う盛り上がりなので
楽しいですね。

— 陸上を続けていてつらかった
ことは？

濱田 陸上は「ツライ」というイ
メージを持たれがちなスポーツで
すが、他のスポーツと何ら変わり
はないと思います。記録会などで
自己ベストが出ると励みになりま
すし、駅伝ではチーム一丸となっ
てたすきを繋ぎ、好成績が出たと
きは達成感を味わうことができま
す。ロードレースでは浴道からの
声援が嬉しいですね。今まで陸上
をやっていて、走れていない時や
プレッシャーなどで「ツライ」と
思ったことはありませんが、「止め
たい」と思ったことはないですね。
両親からの応援もあり、陸上を始
めて本当によかったと思います。

— 九大を志望した理由は何です
か。

濱田 環境問題に興味があつて、



農学部を志望しました。家から一
番近い国立大学ということと、陸
上部に速い先輩がいたことも志望
理由です。大学院では木材の乾燥
に関する研究をやっています。修
士二年ですので、今は修士論文の
作成に取り組んでいます。

— 大学を卒業してからの目標な
どありますか。

濱田 就職で福岡を離れるかもし
れませんが、陸上は続けていくの
で、来年の福岡国際にも出場して
今回よりもよい成績を残せたらと
思っています。また、就職先の地
元の大会にも出てみたいですね。

— それでは最後に、後輩や九大
を志望する方へのメッセージをお
願いします。

濱田 陸上部の後輩には、大学生
活を悔いなく過ごしてほしいです。
部員同士で練習を積み重ね、駅伝
や記録会など色々な大会に出場し
て、走る喜びを味わってもらいた
いですね。これから九大に入學す
る人には、何かサークルに入って、
勉強や研究では得られない経験を
積んで視野を広げてほしいです。
陸上部はOBとの交流も盛んで色
々な方とも知り合えるので、ぜひ
陸上部に入って、スポーツの醍醐
味を自分自身で体験してほしいで
すね。

伊都に世界最先端の水素材料実験棟オープン



開所した水素材料先端科学研究センター（右の建物）と、構内道路を走る燃料電池自動車。

近い将来のエネルギー源として期待される水素。

平成十九年十一月九日（金）、伊都キャンパスに、水素に関わる材料研究を行う世界最先端の実験棟が完成し、開所式が行われました。

独立行政法人「産業技術総合研究所（以下、産総研）」と九州大学は、平成十八年五月に連携協力協定を締結。「新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）」の委託を受け、同年七月一日には「産総研・水素材料先端科学研究センター（研究センター長・村上敬宜九州大学理事・副学長）」を伊都キャンパス内に創立しました。

九州大学の教員が水素材料先端科学研究センターの研究員を兼ね、産総研の専任研究員と共同で研究するという新しい形で、水素エネルギー利用社会実現のための基盤整備を目的とする「液化・高圧化による材料の水素脆弱（水素にふれる材料が脆くなる現象）の基本原理の解明及び対策の検討」「液化・高圧化した状態での水素の物性の解明」などを進

めています。

新たに完成した実験棟は、四階建てで延べ床面積三五七・四三㎡。高圧水素実験施設（一〇〇メガパスカル程度までの高圧水素環境下での実験施設）と、高感度精密分析施設（超高感度の水素分析を行う実験施設）から構成されています。

式には、経済産業省、文部科学省、NEDO、海外の研究機関、福岡県、福岡市、地元自治体、企業、産総研、九州大学などから関係者約一五〇人が参加しました。また、この日は、自動車メーカー三社の協賛による燃料電池自動車の体験試乗会が行われ、音も臭いもない加速を、多くの市民学生、教職員が体験していました。



センターの入口で行われたテープカット。

梶山九州大学総長の挨拶

本センターは、伊都キャンパスを先端技術の実証実験の場にする計画の一環。水素に関わる材料研究に特化した世界でも稀な本センターが、社会変化に影響を与える成果を生み出すことを期待する。そのために不可欠な地元の理解と支援が得られるよう、大学もしっかり支えていく。

麻生福岡県知事の挨拶

福岡県には「福岡水素エネルギー戦略会議（会長・羽矢惇新日鐵エンジニアリング社長）」があり、約三〇〇の企業など産学官が連携して、安全で環境にやさしい水素エネルギー社会の構築を推進している。九州大学の学の力はその中心。今回の実験棟開所が、この分野の世界のテストフィールドづくり、世界標準づくりへの飛躍につながることを期待する。



祝辞を述べる麻生知事

古川貞二郎さん 大学院生へ講義

九州大学では、大学院での共通教育の整備・拡充を推し進めており、昨年度から「大学院共通教育科目」を開設しています。この科目では、特定の研究院・学府に偏ることなく、総長、副学長はじめ全学から講師が起用されており、さらにテーマに応じて多方面の識者を講師として招いています。

平成十九年十一月十四日～十六日の三日間、「組織と運営…リーダーシップ」と題する古川貞二郎氏（元・内閣官房副長官）による講義が、箱崎キャンパス五十周年記念講堂で開講されました。

最終日の十六日には、村山、橋本、小淵、森、小泉の五内閣において八年七ヶ月の間に内閣官房副長官として得た経験や見識をもとに、「組織人としての考え方と組織の動かし方」「六つの行動基準」などについて大学院生に講義がなされました。

参加した大学院生たちは、古川さんが語る一つの言葉の重みを感じながら、真剣な面持ちで講義に聞き入っていました。



盛況だったホームカミングデー六本松

晴天のもと「第二回ホームカミングデー六本松」を十一月二十三日（金・祝）に開催しました。

午前の「伊都キャンパスツアー」は、新キャンパス計画推進室の横田助教をはじめ担当者の案内で一〇〇名程の参加者に、ビッグドラ・ウエスト二、三号館、理系図書館を見学していただきました。

参加者の方からは、「見学後新キャンパスの完成にさらに期待が膨らみました」との感想もいただきました。

午後の「歓迎式及び懇親会」には、約二五〇名が参加され、歓迎式の後、ジロー風パスタ・ミルクホールの一六〇年代版復刻カレー・トンカチーフ（とんかつ定食）・トルコライス等の「懐かしのメニュー」を囲んで、同窓生との楽しいひとときを過ごしていただきました。懇親会中盤には、マンドリン部OBの皆様による演奏や福引き抽選会等が行われ、終盤には、応援団によるエールも披露されました。その後、講演会場への移動途中、体育館ではアメリカンフットボール部チアリーダーパート「エトワルズ」による演武もご覧いただきました。

「サイエンスカフェ」では、九州大学USI（ユージーサイエンス機構）の「食と感性プロジェクト」の活動を紹介いただくとともに、味を数値で表すことを可能にした味覚センサーの仕組みについても簡単に説明いただきました。

また、浜地酒造株式会社・杉能舎（すぎのや）さんからは、九州大吟醸の開発・製造にまつわる色々なお話が聞けました。参加された方に、複数種のミネラルウォーターや二種の九州大吟醸を飲み比べていただき、ご自分の味覚で感じられる違いと味覚センサーでの分析結果とを照らし合わせられ、ご自身の味覚について納得されていました。

当日は、様々な企画に大勢の卒業生が来校され、学園祭ともあいまって楽しいひとときを過ごされました。

（文責…総務部社会連携課）



グッドデザイン賞受賞

総合的デザインプロモーション機関「財団法人日本産業デザイン振興会」による二〇〇七年度のグッドデザイン賞を、九州大学が三件受賞しました。

作品名

子どもとともにデザイン展

受賞者

ユーザースイエンズ機構
子どもプロジェクト

「子どもの居場所」「いのち」「暮らし」等をテーマに、子ども達の衣食住・医・遊を巡るデザイン展。

子どもの感性を通してデザインされたアート作品や玩具、絵本等を通して、大人の心にも響く魅力的なチャイルド・ライフ・デザインを体験できるプロジェクトとして、デザインワークショップやフォーラムの開催を通して、デザインプロセスに触れる機会も提供しています。

今後も様々なユーザーに、新鮮な価値観をもって「子ども」という共感点を得られるデザイン展として巡回していきます。



作品名

医療・福祉分野へのコンピュータサイエンスの導入

受賞者

九州大学病院 先端医工学診療部 部長 橋爪 誠

今回の受賞は九州大学病院先端医工学診療部（部長 橋爪誠）が取り組んでいるコンピュータ技術を用いた精密手術の研究開発から、内視鏡外科手術のトレーニングセミナー開催を通じた医師の教育訓練までの、一連の実験的臨床研究開発が対象です。

内視鏡ロボット治療はまだ一般的に認められた医療ではなく、開発段階の実験的医療であるため、医療の質を保証し社会的認知を得るためにも、この技術開発と内視鏡手術トレーニングセンターでの教育訓練は重要です。

また、様々な疾患に対してこの手術法の応用の検討や、日本とタイ国間での遠隔手術操作を用いた動物実験の成功などで、遠隔地医療にも新しい可能性を示し、利用計画の幅広い検討も行われています。



作品名

ユーザースイエンズ機構
大橋サテライト・ルネット

受賞者

石田壽一研究室（芸術工学研究院）

今回の受賞作品である九大サテライト「ルネット」は、本学大橋キャンパスにも近い「ゆめアール大橋」という福岡市の音楽演劇文化の育成施設と同じ敷地に建つ九州大学の研究教育活動の広報拠点としてデザインされました。暫定利用施設のため、ローコスト・リサイクルを優先して計画し、また芸術工学部のデザイン力をアピールするためにアルミ材を用いたプレハブ構造を用いて短期間の建設と高いデザイン性を有する建築空間を創造しました。



環境サークル「ecoa」 九大祭で環境プロジェクト

毎年、ゴミが分別されないまま大量に出ており、グラウンドやゴミ箱の状態がひどかった九大祭。この現状をなんとかしようと仲間達と環境サークル「ecoa」を立ち上げ、取り組んできました。具体的にはまず、ゴミの回収ブースを設置し、捨てられる場所を三箇所限定しました。また、ゴミは十項目に分別して捨ててもらおうようにし、缶・ペットボトル・古紙などはリサイクルに出しました。他にも、出店団体にバイオマスカップ（トウモロコシ原料のリサイクルカップ）を使って飲み物を販売してもらおうようにしました。飲み終わったバイオマスカップは回収してリサイクルするため、一個返却につき一回抽選ができてエコグッズ（マイバッグなど）が当たる抽選会も実施。このような取り組みの結果、約三トンのゴミを減らすことに成功しました。来場者にも「今年の九大祭はゴミがほとんどなくて気持ちがよかった」など高い評価をいただきました。

二十一世紀プログラム課程四年（四期生）

「ecoa」副代表 山下琴恵（やました ことえ）



ゴミの回収ブース、その名も「ミドリの窓口」



集積所にて、ゴミの分別チェック

ITER（国際熱核融合実験炉）機構長が講演

平成十九年十二月十八日（火）、池田要ITER機構長が、梶山総長を表敬訪問しました。

ITERは平成十九年十月二十四日に正式に設立し、池田氏が十一月二十七日付けで初代機構長に就任しました。池田機構長から、フランスでの実験装置ITER本体の建設及びITERの世界での役割、さらにITERにおける日本の位置づけ等についてお話がありました。

また、応用力学研究所の伊藤早苗教授から提案があったITERとの学術交流協定の締結及びITERでのインタシンツプの実施について活発な意見交換が行われました。表敬訪問終了後、筑紫キャンパスにおいて「ITERの現状とITERの望む人材」と題して、応用力学研究所及び総合理工学府共催の講演がありました。

池田機構長は、南フランス・カダラッシュ（プロヴァンス地方）において日欧米口中韓印の世界七極が共同で建設を始めたITER計画の最新状況を説明するとともに、国際事業で求められる若手人材や仕事の環境まで広くかつ詳細に述べました。エネルギー問題や環境問題に果たすITERを中心とした核融合研究の重要な役割を力説され、「こうした問題に対する最大の資源は科学技術である」との力強いメッセージで講演会を閉じました。会場との三分を越える質疑応答で盛り上がり、充実した国際ファカルティ・デベロップメントとしての講演が実現しました。

なお、平成二十年七月には同機構長を国際運営委員長とするITER International Summer School (ISS2008) が九州大学筑紫キャンパスで開かれ、世界中から若手研究者が集まる予定です。



池田機構長による講演会



左から小寺山理事、伊藤教授、池田ITER機構長、梶山総長、柳原理事、矢木教授。

同窓会の話題

九州大学女子卒業生の会「松の実会」 佐賀支部

さがん松の実会

キャンパスめぐり



第十九回さがん松の実会は、十一月十一日(日)に新しい伊都、懐かしい六本松、箱崎の三つのキャンパスめぐりをしました。

伊都では農学研究院分室 吉木室長補佐にご案内いただき、フーコーの振り子や漆のアートなど施設の見学後、ビッグオレンジでは工学府の学生さんからビデオと概要説明を受けました。

次に九大ブランドのお酒の浜地酒造株式会社・杉能舎(すぎのや)で酒蔵見学と試飲をし、皆さん九州大吟醸をお土産に記念撮影!

その後六本松、箱崎キャンパスを思い出散策し、和気あいあいと楽しい秋の一日を過ごしました。

「松の実会」 佐賀支部長

久納 圭子

welcome to Kyushu University

ようこそ九州大学へ

江原大学校総長(韓国)

平成十九年十月十六日(火)、崔鉉燮(チェ・ヒョンソプ)江原大学校総長が、梶山総長を表敬訪問しました。

今回の訪問は、早稲田大学の一二五周年記念式典等に出席する折に本学を訪れたもので、平成十七年に交流協定を締結した後、毎年留学生の交流は行われていますが、更なる研究者の交流として、本学の東アジア環境問題プロジェクトチームとの環境問題についての国際共同研究の推進について、意見交換が行われました。



中華人民共和国 駐福岡総領事

平成十九年十一月十六日(金)、武樹民(ウー・シューミン)中華人民共和国駐福岡総領事が、梶山総長を表敬訪問しました。

武総領事は、総領事就任に際し本学を訪問されたもので、本学に約八十年前に中国から留学した郭沫若氏に係る本学との繋がりが、十一月七、八日に東京で開催された日中学長会議及び東アジア環境問題における大学の役割等について活発な意見交換が行われました。

また、表敬訪問終了後は総長室に掲げられている孫文氏及び郭沫若氏の書、更に中央図書館を見学し、最後に同館会議室において中国からの留学生と懇談しました。



伊都祭2007

「きちゃってんしゃい!伊都キャンパスー全部まとめて糸島たい!」

晴天に恵まれた平成十九年十一月十日(土)、伊都祭2007「きちゃってんしゃい!伊都キャンパスー全部まとめて糸島たい!」が伊都キャンパスを会場に開催されました。

初開催となったこの伊都祭は、九州大学の学生・教職員・地域(福岡市西部六校区(周船寺・玄洋・今宿・今津・元岡・北崎)・前原市・志摩町・二丈町)住民が一体となり、大学と地域の魅力を発信し、ともに発展するための関係づくりを行うことを目的として企画され、今回は「地域住民に伊都キャンパスに足を運んでもらい、大学と地域の間にある垣根を取り払う」ことを趣旨に、実行委員長の久保山宏さん(大学院工学府博士課程二年)を中心に学生・教職員・地域住民が一体となって実施されました。

会場となった伊都キャンパスには、三、〇〇〇人を超える来場者が訪れ、西講義棟一階に設けられた特設ステージでは和太鼓演奏、タップダンス、人

形芝居、獅子舞、吹奏楽演奏など様々なステージイベントが行われ、糸島産の焼き牡蠣、糸島の郷土料理「そつめんちり」、地元酒造の地ビール、野菜、果物、出来たてパン、突きたてお餅などが並んだ露店には商品を買求める人の長い列ができていました。

ウエスト二号館のピロティに設けられた子供広場では、竹とんぼや竹ぼっくりを作ったり、風船を使ったバルーンアート、マジックショーなどを楽しんだり、色々な絵本が置かれた絵本カーニバルのスペースで思い思いに絵本を楽しんだりする家族連れの姿が見られました。

また、ウエスト四号館のピロティでは、工学部の学生が主催するサイエンスワールドが同時開催され、実際の装置やパネル・実験器具・CG(コンピュータグラフィックス)の公開、ロボットの操作体験などのイベントが行われ、来場者に日頃行われている研究を詳しく説明していました。



日本IBM科学賞を 定兼准教授が受賞

日本アイ・ビー・エム(株)が、日本における科学分野の学術研究の振興と若手研究者の育成に寄与することを目的に創設した「日本IBM科学賞」の、今年度のコンピュータ・サイエンス分野の受賞者として、大学院システム情報科学研究院情報工学部門の定兼邦彦准教授が選ばれました。

今回の受賞は、定兼准教授の研究業績である「超簡潔データ構造の開発」が評価されたことによるものです。



受賞式にて

九大カリフォルニア オフィス便り



二〇〇七年十一月三十日
九州大学カリフォルニアオフィス所長
松尾 正人

九大生よ、英語をやろう!!

九大生の皆さん

カリフォルニアオフィスでは十月からインターネットを使った遠隔授業「九大生よ、リーダーになろう」リーダーシップ論、起業家精神の勧め」を開始しました。来年一月末まで毎週異なった講師にご自分の経験から生まれるリーダーシップ論を語っていただいています。約三十人の学生が聴講していますが、レポートを読むと大変役に立っているよううれしく思っています。

さて、右記授業の中でも国際力を強化することがリーダーのひとつの要件であり、そのためには英語力がどうしても必要なことが多く語られています。そこで当オフィスと九大国際交流推進室とが協力して、米国での英語研修を企画しましたので、今日は皆さんになぜ英語の勉強をせねばならないかをお話ししたくてこの文章を書きました。ぜひ読んでください。



九大からの英語研修メンバーの9人、サンフランシスコ到着後にモンテレーの海岸にて。

日本で優秀、外国で無能

私は日本企業の駐在員として三十数年間アメリカに駐在し外から日本を見てきました。その間多くの社員の米国出張を支援してきましたが、とても残念なことは日本で大変優秀なマネジャーがこちらに来ると英語ができないだけで無能と思われるのを多く見てきたことです。しかもこの傾向はこの三十年間で大きく改善されたとは思えません。

なぜそうなのでしょう。その理由は私の解釈では、

■日本は中途半端に市場が大きく、あまり外国と付き合わなくてもある程度利益を上げられる

■日本があまりに快適になったので、苦労して外国に出る必要を感じない

■日本にいると英語を話す機会がほとんどない

■忙しくてそんな暇がない

などではないかと思えます。英語がすべてではありませんが、英語ができないとコミュニケーションが盛りの四十歳になる頃には英語ができないと仕事にならないような事態が起こります。特に企業に入るのでしたら、今英語を学んで人より一歩先に行くことを勧めます。

人口減少と大きな輸入依存性

それに加えて、これからの日本は人口減少のため日本だけの市場ではやっていけないことは目に見えています。日本の主たる企業はすでに外国での存在感を高めようとして色々な手を打っています。外国企業の買収も増えています。

問題は日本人でそれをまともにマネージできる人材が不足していることです。もう一つの要因は、日本はエネルギーと食料の外国依存度が相当高い国です。石油はエネルギー全体の半分以上を占めますがほとんどすべてが輸入です。食糧は七割が輸入と言われています。将来に亘ってこれを確保することが日本の最重要課題だと思えますが、それを支える強い交渉力が必要なのです。

これから英語を自由に操れる人が増えることは日本にとって大変重要なことだと思えます。

新しい自分が発見できる

英語を学ぶために一度外国に出てみるとわかりますが、英語を学ぶということが単に語学技術の習得だけではなく、自分自身の発見につながるのです。誰かと会話するにしても、自分が何に関心を持ち、何を話すことができるのか、それをどう表現したらいいのか、どうやったら

相手を納得させられるか、どうやったら認められ尊敬してもらえるか、などを考えるようになる。自分自身の知識と能力の限界に気がつきます。これらを通してこれから自分がどんな考えで何を勉強したらよいかかわかるようになると思います。

新しい日本が発見できる

外国に出ると日本人であることを強く意識せざるを得ないので、日本の素晴らしさや弱みを認識するようになるのも新しい発見です。英語をやることでこのような新しい日本を発見することができるようになります。日本をどう変えねばならないかも見えてきます。そうすればあなたの後の日本での生き方も変わってくるでしょう。

英語の必要性を早く認識しよう

これからの日本のためには、あなたたちが英語を学び、外国を理解し、日本の素晴らしさを知り、それを世界に発信して、日本を高い位置に押し上げることが大変重要になってきます。私は九大生が英語の必要性に早く気がついて今英語の勉強をしておくことを薦めたいのです。

英語ができると世界の八十%の人と意思疎通ができるといわれています。

過去の英語研修の評価

二〇〇七年八月から九月にかけて第一回目の四週間英語研修を行いました。三十人募集したのに残念ながら九人しか集まりませんでした。この九人の九大生はこの四週間で大きく変わったと思います。到着時は小さい声で細々とつたない英語を話していた学生たちが、四週間後には九人がそれぞれのテーマで堂々とニュース解説をしているのをビデオで見ました。信じられないくらいです。アンケートでの評価でも二十四件の質問（五点評価で、大変良かったが一・〇、全く役に立たなかったが五・〇）に対し平均が一・七でした。みな授業だけでなくホームステイ先との交流にも大変満足したようです。英語だけの生活を四週間やった結果、英語を話すことにコンプレックスが全くなくなっていくようです。詳しい結果は左記のウェブをご覧ください。

<http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/MIIIS/report-top.htm>

九大の英語研修プログラムに参加しよう

二〇〇八年においても八月から九月にかけて四週間の英語研修を計画しています。これはシリコンバレーの南に存在する美しいモントレイという町にある Monterey Institute of International Studies という語学専門の学校で四週間英語漬けにするものです。宿泊は全員ホームステイです。授業はそれぞれの能力に合わせてわかりやすい実践的なものになります。参加資格はTOEFLの五〇〇点前後が下限となります。詳しいプログラムは近日中に発表される予定です。

費用は航空運賃を入れて一人五十万円くらいです。みなさん今こそ自分の将来に投資するときです。この研修で自分は英語ができないというコンプレックスを解消しましょう。英語はあくまで相互理解のツールですが、それがないと何も始まりません。皆さんの参加をお待ちしています。



3週間後に学校のカフェテリアにて。はじけるような笑顔が印象的。

質問などがありましたら、下記あてにメールをください。

九州大学カリフォルニアオフィス 松尾正人 matsuo-m@kyudai.jp

九州大学国際交流推進室 高原芳枝 yosie@iso.kyushu-u.ac.jp

カリフォルニアから遠隔講義



学生に講義する梶山総長

グローバル化される世界の中で日本が繁栄するためには「国際的視野を持ち、社会を変革しリードする人材」の育成が必要。この観点から、米国シリコンバレーにある九州大学カリフォルニアオフィスからの遠隔講義「九大生よ、リーダーになろう・リーダーシップ論―起業家精神の勧め―」が、大学院生と学部生（高年次生）を対象に開講されました。

平成十九年十月二日（火）に行われた第一回は、情報基盤研究開発センター（箱崎）の梶山千里総長と、カリフォルニアオフィスの松尾正人所長が語り合うのを、箱崎と伊都の両キャンパスで学生が画面を見て受講するという形式で行われました。

梶山総長と松尾所長は自身の海外留学や生活経験から、自分の考えを持つことや若いうちに多くの経験を積むことの大切さ（梶山）、若いときに外国に出て「英語力・国際基準の常識・関心と知識の多様性」を基本とする真の国際力を身につけるべきこと（松尾）などを語りかけました。講義の最後には二人と両キャンパスの学生との質疑応答も行われました。

二回目以降は、米国で成功した起業家を中心とする日米の講師陣が、その成功に到った自己実現のプロセスや将来のビジョンについて語りかけます。



梶山総長と松尾所長の話に聞き入る学生たち

10月

九大と日産 電子制御で移動障害物回避
川邊武俊システム情報科学研究教授
(日刊工業 10/1)

SIA マレーシア編
高樹のぶ子特任教授
(西日本 10/1, 2)
日本地域学会 九大でシンポ
「道州制と地方分権」
(西日本 10/2)
日中韓で環境問題取り組み
「東アジア環境問題プロジェクト」
発足
(日刊工業 10/2)
北海道足寄で九大演習林の公開講座
(十勝毎日 10/3)
金融業界 今後の課題
堀江康熙経済学研究教授
(西日本 10/3)
西日本新聞社寄付講座
分権・地域について 九州大学で開講
(西日本 10/4)
米国から叱咤激励
シリコンバレーから遠隔授業
梶山千里総長
(日刊工業 10/5)
大学連携型起業家育成施設
患者の頭蓋骨立体映像化
竹田仰芸術工学研究教授ら参加
(長崎 10/5)
医を診る 求められる最適の治療
吉田素文医学研究教授
(朝日 10/6)
読売講座 九大で開講
(読売 10/6)
宮崎大宮高校で九大教授が出前授業
(宮崎 10/6)
現代人むしばむ「脳疲労」
藤野武彦名誉教授
(西日本 10/7)
中澤正夫著「ヒバクシャの心の傷を追って」 評・直野章子比較社会文化研究
院准教授
(熊本毎日 10/7)
味を測る 味覚センサー
都甲潔システム情報科学研究教授
(日経 10/7)

新種の昆虫発見 難しい「証明」
多田内修農学研究教授
(読売 10/7)

車が拓く 燃料電池開発
水素材料先端科学研究センター
(西日本 10/7)
謎を秘めた古代の木簡
坂上康俊人文科学研究教授
(読売 10/7)
酔いさめない大学発のお酒
九州大吟醸
ラジサングレイヒジネスアイ 10/7
中国の汚染
九大が中国との共同研究
(西日本 10/7)
先端走る石炭研究
産官学で人材育成 持田勲特任教授
(朝日 10/7)
USI 特別セミナー開催
完成なき感性
(日刊工業 10/8)
進化する難聴治療
人工内耳の小型化
小宗静男医学研究教授
(西日本 10/8)
英書盗作疑惑 芸工院教授
出勤停止三ヶ月
(朝日 日経 読売 西日本 10/10)
骨や関節の役割
杉岡洋一元九大総長が講演
西日本支店長会
(西日本 10/10)
味覚センサー 手軽に持ち運び
都甲潔システム情報科学研究教授
(日経産業 10/12)
SIA 文学通じアジアと交流
高樹のぶ子特任教授
アジア総合政策センター
(日経 10/15)
ドイツ国際平和村でのボランティア
活動 歯学部准教授や学生ら
久保敬司准教授
(読売 朝日 10/16, 23)
効果的な「弁当の日」
佐藤剛志農学研究助教授
(西日本 10/16)
佐賀県と九大が協力協定締結
有明海再生など
(朝日 読売 佐賀 日刊工業 沖縄タイムス 10/17, 19, 21, 30)

化学・生物兵器の世紀
井上尚英名誉教授
(夕刊テイエロ 10/18, 19)

「峠の歴史学」発刊
服部英雄比較社会文化研究教授
(朝日 10/19)
わが母校 九州大学 横河ブリッジ
ホールディングス 佐々木恒容社長
(日刊工業 10/19)
「九州という思想」発刊
松本常彦比較社会文化研究教授
(日経 10/20)
医を診る 医学教育
対話・内省プロジェクト形成
(朝日 10/20)
認知症の在宅ケア 九大で研究会開催
(西日本 10/20)
九州大学仏教青年会 百年祭開催
(読売 10/20)
日中研究者が公法学会シンポ 九大で
(西日本 10/20)
九大と釜山大が共同授業
日韓リードする人材を
(毎日 10/20)
じゃんけんパー パラシユート?
パイナップル? 西原菜奈子助手
(朝日 10/20)
日仏五機関が連携
九州大学内に核融合研究所設立
(西日本 佐賀 高崎毎日 南日本 長崎 日経 日刊工業 岐阜 日経産業 フジサンケイビジネスア 10/20, 23, 24)
九州大学マジックサークル
(西日本 10/21)
脱メタバ 官学連携 九大と福岡市
(西日本 10/22)
九大北海道演習林で足寄町職員研修
(十勝毎日 10/22)
SIA マレーシア訪問を報告
高樹のぶ子特任教授
(読売 10/22)
音をデザインする
岩宮真一郎芸術工学研究教授
(西日本 10/22, 25, 26, 27, 29)
食育ワークショップ
箱崎キャンパスで
(読売 10/23)
進む教育改革 専門性の高いゼネラル
スト養成 二十一世紀プログラム
(日刊工業 10/23)

九大と理化学研究所
白血病の再発原因解明
(産経 10/23)

彫刻家・外尾悦郎さん 九大USI
客員教授へ就任 近況往来
(西日本 10/24)
九大生(芸術工学部)と協力し新天町
で癒し演出 新アーケード着工
(西日本 10/25)
日本の教育 志を高める
学生をシリコンバレーで刺激
谷川徹知的財産本部教授
(日経 10/25)
九州大病院
入院手ぶらサービス開始
(読売 毎日 日刊工業 10/25, 30)
小説時評
松本常彦比較社会文化研究教授
(読売 10/25)
血管炎症と大腸がんの関連
古野純典医学研究教授
大竹登志江医師
(南日本 10/26)
組み込みソフト 世界で競う
九州で産学官連携必要
福田晃システム情報科学研究教授
(西日本 10/26)
世界市民講座 中国の文化紹介
九大大学院のセツ・シユンサンを
講師に
(西日本 10/26)
水素エネルギーの実用化に向けて
燃料電池自動車
(読売 10/26)
糸島すべてが「農学校」
九大伊都キャンパスで
(朝日 10/26)
大学も「弁当の日」
九州大学箱崎キャンパスで
(毎日 西日本 10/26, 28)
文化功労者に国武豊喜名誉教授
(朝日 毎日 日経 読売 西日本 10/27)
医を診る 複数の診療科体験が財産
医学教育 吉田素文医学研究教授
(朝日 10/27)
景観を読む 地域遺産の国際性
長崎のキリスト教関連遺産
土居義岳芸術工学研究教授
(毎日 10/27)

九大に「カミネ油症」研究専門機関設
置 古江増隆医学研究教授
(読売 10/28)

一流の味再現する「食譜」
味覚センサー
都甲潔システム情報科学研究教授
(朝日 10/28)
「大学サミット・イン・九州二〇〇七」
九州大学主催で開催
一九九の十二大学参加
(宮崎毎日 熊本毎日 10/28)
認知症在宅ケア 地域完結型探る
九大病院で研究会
(西日本 10/28)
残尿感 軽く見ず診療を
前立腺肥大
内藤誠二医学研究教授
(日経 10/28)
急性骨髄性白血病 九大病院など
再発の仕組み解明
福岡でシンポ
(朝日 10/29)
中国との経済関係 福岡でシンポ
アジア総合政策センター後援で
(読売 10/30)
食害禍 シカ駆除に 屋久島
矢原徹一理学研究教授らのグルー
プ調査
(朝日 10/30)
環境温暖化 桜咲かない九州にする
な 伊藤久徳理学研究教授
(西日本 10/30)
産学連携セミナー
NHK技術について
筑紫キャンパスで
(日刊工業 10/30)
石西礁湖の死滅深刻
理学研究院附属臨界実験所の調査で
(沖縄タイムス 11/1)
サイエンスキャラバン 九大との交
流事業が好評 糸島一市二町
(毎日 11/1)
どうなる九大遺産 移転契機に保存
策探る 箱崎キャンパス
(西日本 11/1)

11月

延世大学教授のポスター展
大橋キャンパスのルネッサンス
(西日本 11/7)

縄文杉 森の歴史を科学的側面から
吉田茂二郎農学研究院教授ら
(読売 11/2)

ふたたびキャンパスへ 西日本新聞
寄付講座 前田隆夫客員准教授
(西日本 11/2)

秋の褒章 紫綬褒章
入江正浩名誉教授
(朝日 毎日 日経 読売 西日本 産経 11/2)

ドーピング検査 九大法医学教室で
ソフトバンクの選手
(朝日 11/2)

センター試験 リスニングテスト
九大が予行練習
(西日本 11/2)

入退院の荷物配送サービス
九大病院開始
(朝日 日経 タイムス 熊本日日 11/3, 17, 19)

足の閉塞性動脈硬化症
九大病院が遺伝子治療
伊東啓行講師 米満吉和特任教授
(西日本 11/5)

糸島丸ごと農学校スタート
九州大学と福岡県、前原市など
(西日本 11/5)

核融合の国際研究所
日仏五機関で創設 九大、
プロパンス大、CNRSなど
(熊本日日 11/5)

九大 配筋避けアンカー挿入
耐震補強 不良工事低減
(建設通信 11/5)

電磁波は人体に有害か
上野照剛工学研究院特任教授
(西日本 11/6)

「メタボ牛」幼児期に太らせ体質改善
高原農業実験実習場
後藤貴文農学研究院准教授
(毎日 11/6)

児童買春容疑で九大職員逮捕
(毎日 西日本 読売 朝日 産経 11/6, 7)

福岡をゲーム開発の拠点に
九大など産学官が連携
(読売 朝日 11/6, 8)

麻疹の原因ウイルス 侵入構造を九
大が解明 柳雄介医学研究院教授
前仲勝美医学研究院准教授
(日経 西日本 読売 日刊工業 佐賀 熊本日日
南日本 長崎 朝日 山口 11/6, 7, 8, 26)

食と農を考えるシンポジウム
九大で開催
(西日本 11/7)

第二十三回京都賞
審査委員長に聞く 梶山千里総長
(京都 11/7)

福岡読売写真クラブ
九大病院で写真展
(読売 11/7)

窒素酸化物排出量 四半世紀で四倍
国立環境研究所と九大など調査
(産経 11/7)

のれんやオブジェで街並み演出
芸術工学学芸大学院生ら
(西日本 読売 11/7, 24)

「分権型社会論」講座
地域の実情学ぶ機会に
(西日本 11/8)

無罪訴えたが死刑執行「福岡事件」
再審支援へ 九大院生ら
(朝日 11/8)

ハンセン病患者者ら救済を
内田博文文学研究院教授の講演会
(西日本 11/8)

歯周病とメタボの関連 学術講演
山下喜久歯学研究院教授
(長崎 11/8)

体内酵素に抗がん作用 カテプシン
E 山本健二歯学研究院教授ら発見
(西日本 読売 日経 毎日 夕刊テレイ
工業 フジサンケイビジネスアイ 南日本 大分合
同 富崎日日 朝日 熊本日日 11/8, 9, 11,
12, 13, 27)

九大伊都キャンパスで「伊都祭」
地元住民と
(読売 西日本 朝日 11/8, 9, 11)

内視鏡手術
立体映像で奥行きはつきり
九大と松下電工
(日経 11/9)

六本松跡地利用
市民団体がアンケート開始
(西日本 11/9)

六本松キャンパスで ホームカミン
グ開催 懐かしのランチ
(西日本 11/9, 17)

伊都キャンパスに 水素材料研究棟
が完成 世界レベルの研究開始
(西日本 読売 朝日 日経 日刊工業 11/9,
10, 13, 16)

癒しの森で村おこし 宮崎椎菜村
九大演習林活用
(毎日 11/10)

金融危機から十年
元日本長期信用銀行常務
小西龍治経済学研究院教授
(産経 11/10)

ネットで味覚判定し紹介
三菱商事など
九大開発の味覚センサー
(日経 11/10)

医を診る 医学教育 プロ意識育て
る新制度 吉田素文医学研究院教授
(朝日 11/10)

火災の歴史刻むれんが
九州大学本部事務局
(朝日 11/13)

SIA ベトナムと私
高樹のぶ子特任教授
(朝日 11/13)

九大と北大で合同活動報告会
北と南から日本が変わる教育新時代
(日経 日刊工業 11/13, 16)

火山会議に寄せる思い 研究成果
発表へ発信
(長崎 11/14)

ソウルで日中韓シンポジウム
アジア総合政策センター
(西日本 11/14)

九大病院 女性医療人教育実践
センター設立 女性を支援
(西日本 11/14)

美術の「アジア」は死語か
後小路雅弘人文科学研究院教授
(朝日 11/16)

屋久島に新種植物
矢原徹一理学研究院教授が断定
(南日本 11/16)

九大アメフト部 米田泰之選手
ランの稼ぎ屋
(朝日 11/16)

福岡空港問題 発展のため新規建設
を善功工学研究院教授
(西日本 11/16)

科学を語る会 都甲潔システム情報
科学研究院教授が講演
(西日本 11/16)

九大での寄付講座
西日本新聞HPに特設サイト
(西日本 11/16)

日中韓学術シンポジウム 共通課題
克服 アジア総合政策センター
(毎日 11/16, 17)

医を診る 専門職同士の連携
吉田素文医学研究院教授
(朝日 11/17)

元特別研究院
補助金八十万円を不正受給
熊本県とUSI 協力
(読売 11/17)

超成長ワークシヨップ
夢学のススメ 箱崎キャンパスで
(読売 11/17)

国内最古の九大ヨット部
創部八十周年記念
(西日本 11/18)

世界の大学二百 九百三十六位
「タイオキシンは怖くないという嘘」
長山淳哉医学研究院准教授
(西日本 11/18)

九大の大学院に「自動車学」
オートモーティブサイエンスの設置
検討
(西日本 日経 朝日 日刊工業 夕刊テレイ
11/16, 17, 19, 20, 22)

落語研究会の寄席
六本松キャンパスで
(読売 11/20)

世界を舞台に活動を展開 九州大学
(朝日 11/20)

糸島学術研究都市推進協議会
九大や糸島地区一市二町
前原の良さPR
(読売 11/20)

朝鮮学校テーマの映画上映
六本松キャンパスで
(西日本 11/21)

環境保全 南京からの報告 経済成
長との調和を 楠田哲也名誉教授
(西日本 11/21)

数学 他分野へ活躍
産業技術数理研究センター
(読売 11/21)

「コリラの糞は何故に調べられなけれ
ばならないか」中野三敏名誉教授
(読売 11/21)

脳疲労の解消法
藤野武彦名誉教授 本出版
(毎日 11/21)

アジア理解講座
アジア総合政策センター
(毎日 日刊工業 11/23)

大学生「かくや」に続け 九大など
六校が合同で月探査機計画
(朝日 11/24)

白化が過去最大 海水温上昇
石西礁瑚 野島哲学研究院准教授
(琉球新報 11/24)

九大の留学生ら
九州初のモスク建設計画
(朝日 11/24)

月に探査機 九大など六大学
学生意欲
(朝日 11/24)

モンブラン登山二十年
がん患者の体験 九大でシンポ
(西日本 11/24)

日韓・語り合う「書」 韓国研究セン
ター 泉民シンポジウム
(西日本 11/25)

「峠の歴史学 古道をたずねて」
服部英雄比較社会文化研究院教授
小説時評
松本常彦比較社会文化研究院教授
(読売 11/26)

日米メディアの変わり 講演会
知的財産本部
(西日本 11/27)

日中韓で新たな経済圏
熊本で大学トップら会議
(読売 11/27)

ヨット 波の音と無心に遊ぶ
名方俊介歯学部准教授
(西日本 11/27)

ロボットの大賞優秀賞に十三件
九大の手術用ロボットなど
(日経 日経産業 11/28)

ワイン片手に宇宙語る サイエンス
クラブ 山岡均理学研究院助教
(西日本 11/28)

ポストドクター 就職難打開を
九大で討論会
(西日本 11/29)

燃料電池 九大・旭化成など新触媒
伊都キャンパスでJR筑前原
来年四月からバス運行
(毎日 読売 11/29, 30)

「参動交代」 本出版
丸山雅成名誉教授
(朝日 11/30)

九州史学会シンポジウム
箱崎キャンパス法文系講義棟で
(朝日 11/30)



九大生が案内する 世界のキャンパス

Sheffield University

交換留学先 **シェフィールド大学**



イギリス

法学部4年 古賀 匡侑

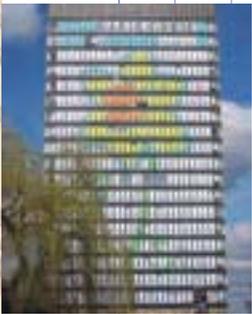
こが まさゆき

有名なBodgerさん(中央左)とBadger(中央右)と音楽祭で。(右から2人目が筆者)

僕はシェフィールド大学で約九ヶ月間主にロシア語とロシアの政治、文化を学びました。Erasmusという寮に住むことになったのですが、寮から大学までは徒歩で約四十分かかり、初めは「うそやろー」と思いましたが、みんなも歩いているのですぐに当たり前のことになりました。四十分かけて大学の門に着くという感じではなく、ぼつぼつと大学の建物が増えてきて、大学の明確な仕切りはなく町に溶け込んでいます。大学と中心街も土地を共有していて買い物に行くのもすごく便利です。イギリスの学生は良く学びよく遊ぶ人が多く、僕も時間と体力が許す限り(寮に住む学生はほとんどが新入生、十八歳です。若いっ!)週末やテストの後はパーティーに行つて歌つて飲んで踊りました。シェフィールドはおいしいケバブの店がたくさんあって、パーティーの後によく立ち寄りしました。

今僕が一番恋しいのはErasmusで過ごした何気ない日常、ただみんなと一緒にご飯を食べ、だからだと話し込んだことです。イギリスのご飯はあまり評判は良くないですが、少なくとも僕はErasmusのご飯が大好きでした。雨も噂どおりよく降っていましたが、僕が堪えたのは冬の日照時間の短さでした。福岡よりずっと北にあるので、冬は朝学校に行くときも薄暗く夕方帰る頃には真っ暗でした。反対に初夏になると朝も早く、夜は十時くらいまで明るい日が続きます。特にErasmusのすぐ近くにある植物園はこの世の楽園のようでした。芝の上の植物は日に日にその表情を変え、そこにすむリスはふさふさのしっぽを揺らしながら軽やかに駆け回り、馬鹿かと思ふかもしれませんが、天使を思わせました。そんなErasmusもこの夏老朽化を理由に一部が取り壊され、改築されています。留学が終わりました。それは日本にもたくさんあります。留学は終わってしまいましたが、僕は留学でたくさん大切なことに気づかされました。それは日本にそのままじゃきつと気づかなかつたと思います。

そして留学は終わってしまいました。たが、僕の中ではまだまだ終わっていないような気がします。



講義塔。シェフィールドの高さ。どこからでも見えるので迷ったときはこれを目印は。



ある雪の日に。2メートルのペンギンです。

大学情報

シェフィールドはイングランド北部、南ヨークシャーに位置するイングランド第四の大都市です。大都市にもかかわらず治安がよく、物価も比較的低いので、勉強するには最適な場所と言えます、卒業生の多くはそのままシェフィールドを生活の場として選んでいます。北部に位置しているため、北部の学生が多いのかなと思ふかもしれませんが、日本の大学とは違って地元の学生は思ひのほか少なく、南部からも多くの学生が来ています。そしてイングランドに限らず、イギリス国内、世界中の一一八の国々から二四、〇〇〇以上の学生がシェフィールド大学に在籍しています。イギリスでも有数の日本語学科があり、たくさんの方が日本語を勉強しています。日本の大学との交流も盛んで日本からの学生もたくさんいます。学生はシェフィールド大学の学生であることを誇りに思っていて、実際にイギリスの主要な大学と評価されています。でもその地位に甘んじることなく、今年新しい図書館(二十四時間開館、シャワールームあり)が完成したように、日々前進し続けています。

交換留学について詳しく知りたい方は、「九大生のための海外留学情報」(<http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/study/>)をご覧ください。過去の交換留学生による報告書も大学毎にたくさん掲載しています。

理系思考

分らないから面白い

著者：元村有希子
発行：毎日新聞社（1,575円）



著者から一言

高校時代、理系に挫折した私ですが、はからずも新聞記者として科学を取材する立場になりました。取材を通して「分らない」ことに目を輝かせる科学者たちに接したことが、私の科学嫌いを治してくれました。本書は〇四年秋から三年間担当した毎日新聞の看板コラム「発信箱」の全作品と書き下ろしのエッセイをまとめたものです。科学記者、そして女性記者の目から世間を眺めてみたら、ちょっと面白い読み物になりました。

（著者の元村氏は一九八九年教育学部卒業。二〇〇六年五月に「第一回科学ジャーナリスト賞」の大賞を受賞。）

こんな本
出しました

編著者：山田耕路（九州大学教育担当理事・副学長）
渡辺哲司（九州大学高等教育開発推進センター 講師）
発行：海鳥社（2007年8月刊 2,000円）

大学歳時記



著者（山田理事）から一言

大学教育の改善が大きな社会的要求となつています。大学教育の改善についてさまざまな議論が行われていますが、その内容について十分な理解が得られているとは思えません。

教員が大学教育を充実させ、それを学生、保護者、社会人が有効に活用するためには、大学教育の内容を正確に把握することが重要です。本書では、二〇〇六年の一年間に行われた教育関連のトピックを紹介し、大学教育の問題点や改革の方向について解説しました。奨学金返還免除の申請など、学生が知っておく必要のある情報も取り入れています。大学入試に関する情報も含んでいきますので、高校生とその保護者にもお役に立てるものと思います。

大学の教育システムの改革と有効利用の一助となれば幸いです。

編集後記

最近の新聞の九大関連記事の掲載傾向を見ると、明らかに昨年までと様相が異なる点があります。それは、部局関連記事が大幅に増加していることです。全体の掲載件数に占める部局関連記事の割合が七割強を占めています（残りは全学関連）。昨年の部局関連記事の割合が五割強であったことからすると、顕著な伸びと言えます。部局の皆様、引き続きマスコミを通じて広報活動に継続してお取組んでください。ちなみに、上半期の記事掲載総数は前年度比30%増の五三〇回、掲載面積の広告費換算額は、五億一七〇〇万円（！）でした。継続は力なり。

総長特別補佐（広報戦略担当） 高田 仁

大学入学志願者の基礎的な学習の達成度を判定することを主目的として毎年一月に行われる大学入試センター試験。今年度の志願者は、前年度に比べ約一万人減少しました。少子化による十八歳人口の減少により、大学の生き残りかけた大学間競争が進んでいくなど、大学を取り巻く変化の中で広報の重要性は増してきます。九大広報、ホームページなどを通じて九大の情報を皆様にお伝えすべく、本年も精一杯頑張つてまいります。

総務部広報室 井手添 彰

九大の最新情報は「九大広報」の

定期購読で。

九州大学同窓会連合会では、九州大学の姿をご理解いただくため、同窓生や在学生のご家族の皆様をはじめ、広く一般の方々にも「九大広報」の定期購読をお願いしています。定期購読は一年間六卷分（隔月発行）三千円でお受けいただけますので、ご希望の方は、同窓会連合会事務局までご連絡をお願いします。

九州大学同窓会連合会事務局
TEL.092-642-4328 FAX.092-642-2113
E-Mail alum.uok@mbox.nc.kyushu-u.ac.jp



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

